Since 1986

すべての人に温泉を

ーいのちの居場所ー

Thermalism for All

社会と温泉ー３つの論点から過去、現在、未来

第101回月例研究会
2021年１２月１日（水）
健康と温泉フォーラム常任理事　合田純人

Since 1986

第一部

組織化

Organization

★　注記　巻頭部から数ページの明治の人物や本文の一部写真は外部資料から転用しました。
その他の写真・表・図はフォーラム版権のオリジナルです。転載に関して十分なご配慮をお願いします。

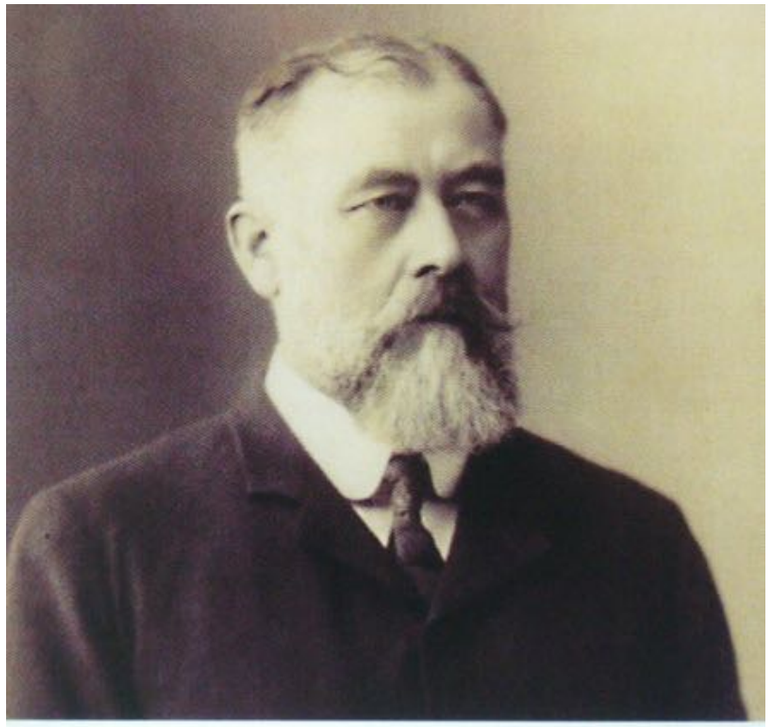


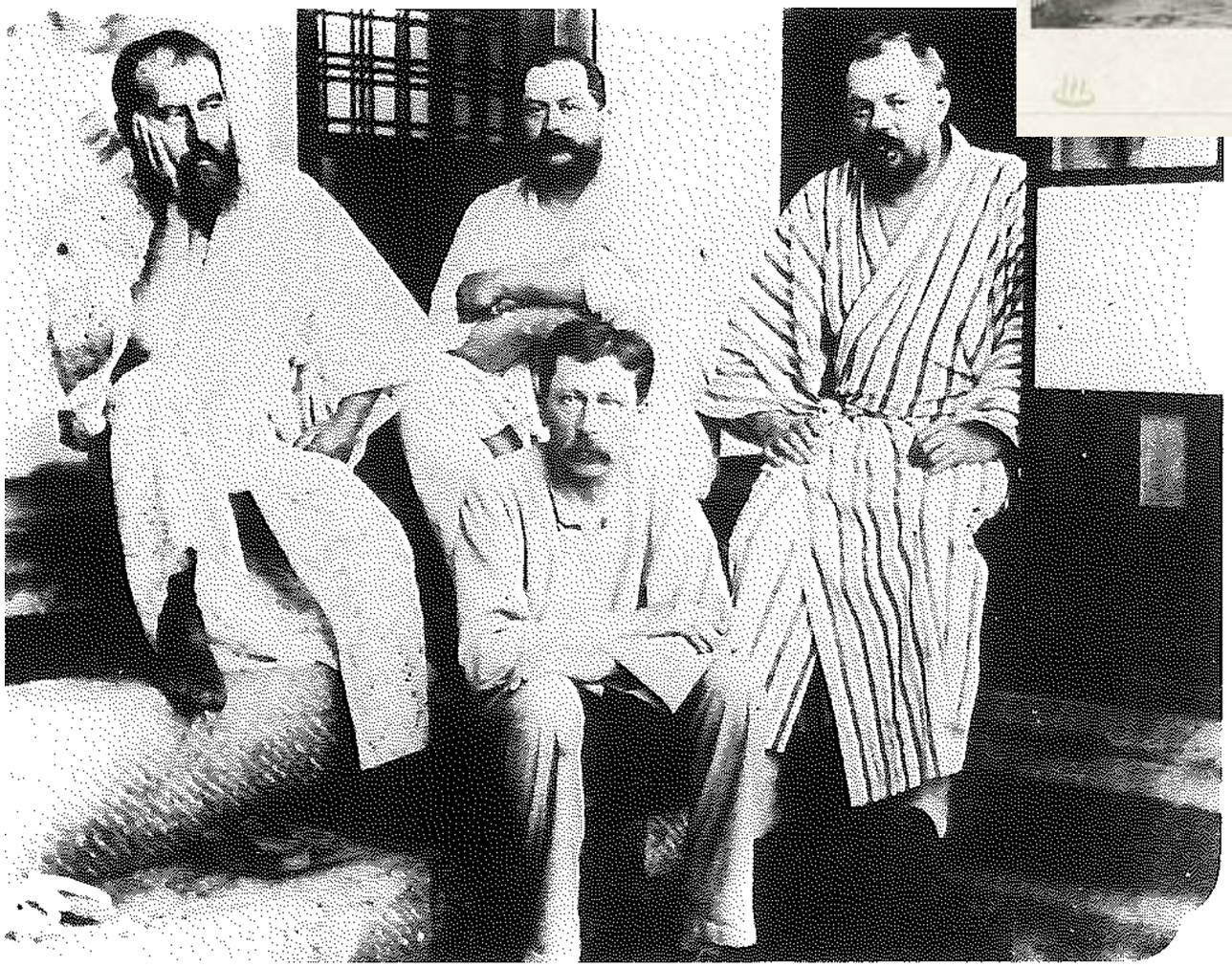
写真 1-10　ベルツ（草津温泉・ベルツ記念館）

ベルツ博士

Dr. Erwin von Bälz(1849-1913)

1876年（明治9年）、明治政府がドイツから外科医スクリバ博士と同時に内科医として招聘。明治29年間東京医学校（東京帝国大学医学部）で教鞭をとる傍ら、皇室の侍医を務める。滞在は２５年に及び、日本の近代医学発展に尽力した。博士の功績は大きく、「日本近代医学の父」称えられています。全国の日本の温泉地を訪ね、（草津、有馬温泉他）1980年『日本鑛泉論』（中央衛生会）を発刊。日本には多くの温泉があり療養に利用されているが、これを指導する機関がない。政府は温泉治療を指導すべきであると説いている。

1891年　草津温泉一井旅館にて



ベルツ博士　グリンワルド氏　クレッフェル博士　スクリバ博士

東京大学内科物理療法学教室　（１９２６～２００３）

- 初代　真鍋嘉一郎教授（１９２６～１９３８）
  - 大正１５年開講
  - 日本温泉気候学会発足（１９３５）
  - 放射能泉（ラジウム泉）の発見
- ２代　三沢敬義教授（１９３８～１９５５）
  - 酸性泉の研究
  - 温泉による免疫能・白血球貪食能増強
  - アレルギー反応の研究
- ３代　大島良雄教授（１９５５～１９７２）
  - 酸性泉・放射能泉の研究
  - 温泉成分吸収の証明、硫酸イオンが抗動脈硬化作用
  - 日本温泉気候物理医学会と改称

健康と温泉フォーラム　(1986~現在)

- 初代 大島良雄教授（1986~1991）
  1911年（明治45年）生　2005年１月１１日逝去　９３歳
- 2代　齊藤幾久次郎教授（1992~2001)
  1914年（大正3年）生　2014年2月逝去　100歳
- 3代　　白倉卓夫教授　　（2002~2007）
- ４代　　三友紀男教授　（2008~現在　）

Willian Smith Clark
1826-1886

新渡戸稲造
1862-1933

大島金太郎
1871-1934

大島良雄
1911-2005

大島良雄博士

Prof. Yoshio Oshima (1911-2005)

1911年（明治44年）誕生。北海道出身。父は農学教育者の大島金太郎 。名付け親メアリー・エルキントン（新渡戸稲造夫人）。東京帝国大学を卒業後、岡山医大教授、信州大教授を経て、1955(昭和30年)東京大学医学部教授となり、’69付属病院長。‘72埼玉医大付属病院長。物理療法が専門で、アレルギー、リウマチ、他温泉の効果（特に強酸性泉や放射能泉）に関する研究で世界的に知られた。健康と温泉フォーラム初代会長（1986-1991）（著書に「温泉療養の指針」（共著）などがある。享年93歳。

温泉の理念（社会的位置づけ）

「温泉は、真に結び付けの 力を持たねばならない。人と人の、人と地 域の、
自然と人の、そして、治療と名付け られたからだの充満と不足の空間を、
慈 悲と無慈悲に揺れ動く天地の振幅を、記 憶の折り畳みと意識の立ち上がりを・・・・、
お互いがお互いを補おうとするものの間を、 繋ぎ合わそうと、促していく、
そうした運動 態として温泉は、今も私達の前にある。」 ——「温泉からの思考」２８０～２８１頁

温泉医学発祥の地から遠く日本を憂う大島良雄博士
(1988年ギリシアコス島のアクレピオス神殿の遺跡)
撮影　合田

健康と温泉フォーラムの標語
Thermalism for ALL　すべての人に温泉を

▪すべての人に温泉を

▪温泉医学・教育の復興

▪温泉の国際化（Globalization 国際交流）

・国際温泉気候連合（FITEC)国際会議のアジア誘致１９８８

・国際温泉気候連合アジア・太平洋協議会の設立（環太平洋）

・世界の温泉地調査・研究（欧州、アフリカ、南北アメリカ、オセアニア、中東、アジア）

▪温泉の社会化（Socialization　制度・政策一保健利用の推進）

· 産官学の連携による温泉プラットフォームの確立

・温泉の価値の再創出と国民の理解（保健的活用の推進）

休養　保養　療養の３つの市場カテゴリー

療養相談

健康と温泉フォーラムの開催

広報/出版・インターネット活用

温泉連携パラダイムチャート

©健康と温泉フォーラム2020

問題は引き起こした時と同じ考えでは解決することができない。　A. アインシュタイン

1912 第一次世界大戦終戦 1914
1924
1935
1940
1948 第二次世界大戦終戦 1945
1949
1954 東京オリンピック 1964
1971 列島改造論 1972
1974
1976
1986 バブル景気 1985-1991
1988 ふるさと創生
2003 温泉研究施設閉鎖 1992-2018
温泉偽装問題 2004
リーマンショック 金融危機 2008
2012 インバウンド 2014
2017
2020 東京オリンピック 2021

J.T.B
日本交通公社
鉄道省（運輸省）
1929 日本温泉協会
学術部会
1935 日本温泉気候物理医学会
東京帝国大学医学部内科物療内科物理療法学講座
ベルツ博士在日 1876–1905
内務省（厚生省）
日本医学会 (1902創設)
健康保険法(1922)

1940 日本温泉科学会
1949 中央温泉研究所
1974 日本健康開発財団
検診事業
クアハウス事業
温気学会事務局
植田理彦
益子　安
村上悠紀雄
木暮　敬
諏訪園辰雄
温泉ブーム
温泉医学の危機感
東北大鳴子 閉鎖1994
北大登別 閉鎖1996
東大　物療 閉鎖1998
1982 温泉療法医会
大学での温泉講座減少・改組
医学教育から温泉医学排除
大島良雄
1986 健康と温泉FORUM 実行委員会
温泉定義・分析指針
温泉法
環境庁
厚生省
国民保養温泉地第一号 酸ヶ湯温泉(1954)
国民保養温泉地利用者ピーク 1560万人(2000)
第一次温泉連携 1986-1990
第二次温泉連携 2020-
第一次国民健康づくり対策 (1978~)
第二次国民健康づくり対策 (1988~)
健康寿命の延伸 (2018~)
国民皆保険制度 (1961)
介護保険制度2000
社会保障改革2020

団体旅行ピーク 2001
個人旅行ピーク 2011
温泉利用型健康増進施設事業
ヘルスツーリズム
温泉地マス経済市場の崩壊と大規模旅館の経営危機
秘湯温泉ブーム
温泉地危機
COVID-19 2020
群大　閉鎖 2002
九大別府 閉鎖2011
岡大三朝 閉鎖2016
鹿大桐島閉鎖2018
産官学の連携プラットフォームづくり
2003 NPO健康と温泉フォーラム
温泉自治体広域連携会議
日本交通公社
温泉医科学研究所
新・湯治プロジェクト

日本の温泉の長期ビジョンと戦略及び政策

Since 1986

第二部

国際化

Globalization

温泉文化の源流

スキタイ文明

熱気浴・
蒸気浴

(ドライ)

古代ローマ文明

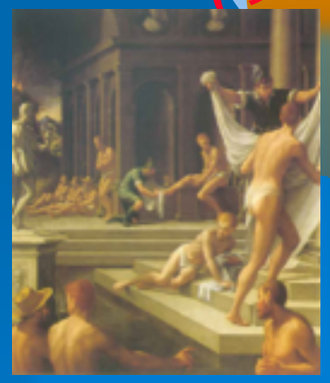
温泉浴

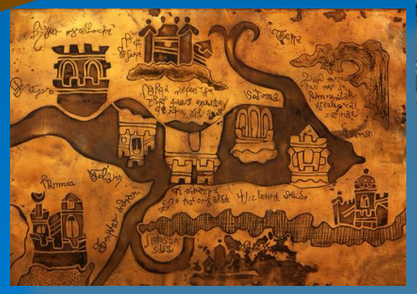
(ウエッ

古代ギリシア文明

古代エジプト文明

仏教文化

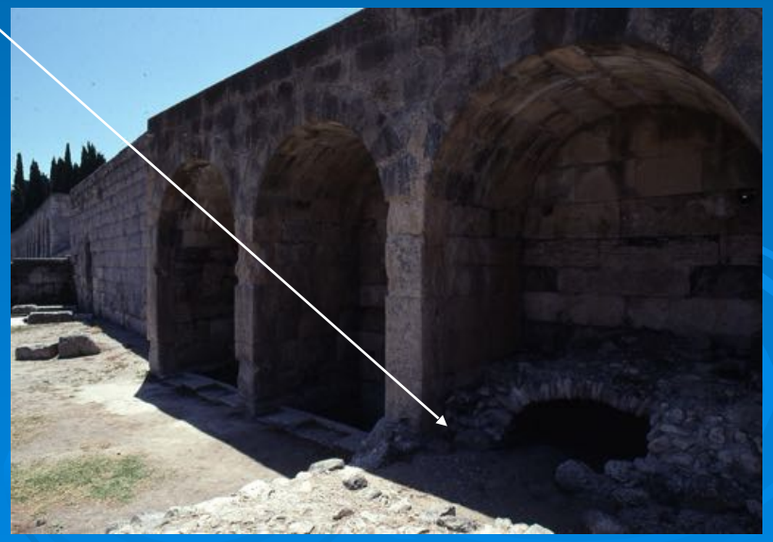




ギリシャ・コス島

温泉医療発祥の地

ヒポクラテスの生地コス島は、アテネの南東トルコ領小アジアの沿岸に近いエーゲ海の小島で、ギリシャのなかでは比較的緑が豊かで、糸杉や松の濃い深緑は白い建物の大理石と見事なコントラストをつくりだしている。　紀元前400年頃発刊されたヒポクラテス全集の鉱泉論では「入浴は健康に効果がある」と説いている。ここコス島　　のアスクレピオンは全部で３層になっており現在温泉は枯れており、浴槽の遺跡が残っているのみ。
完治した人々の感謝の気持ちを疾患部を模したテラコッタを奉納することで表している。日本の神社の絵馬の風習と同じである。



ヒポクラテスの誓い

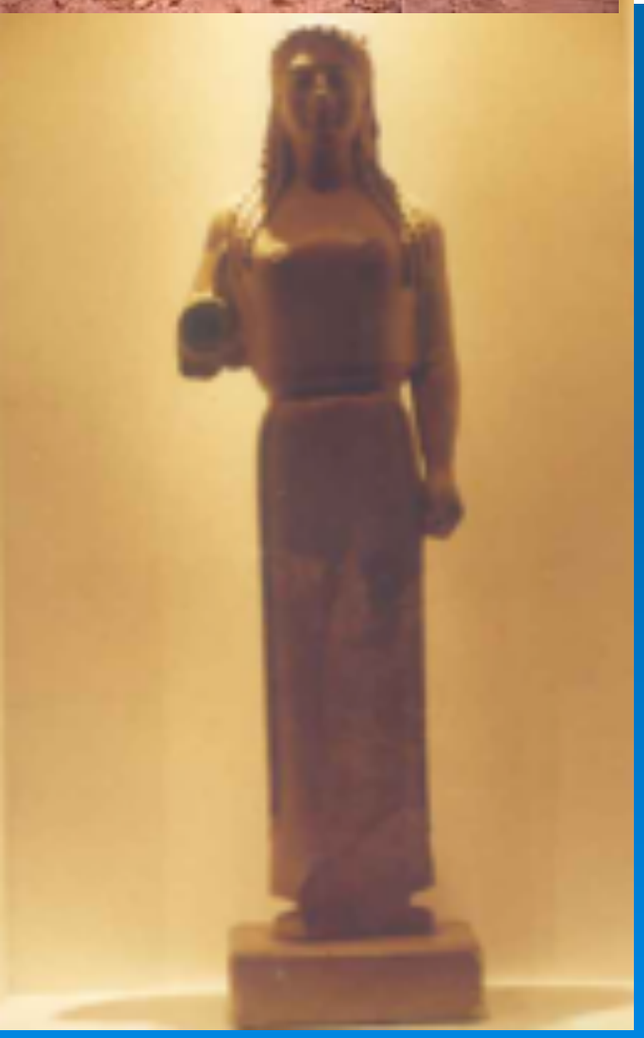
ギリシャ・コス島

温泉医療発祥の地

ギリシャ神話の名医アスレクレピオスは

太陽神アポロの子で、医療あるいは健康の神として崇められ、その子孫アスクレピタルは代々アスクレピオスを祭った神殿アスクレピオンに仕える僧であると共に医療を司った。ヒポクラテスもコス島のここアスクレピオンで医療を学び、プラタナスの木の下で講義をしたといわれている。

ヒポクラテス博物館



ギリシャの温泉

ギリシャには７５２の鉱泉（温泉を含む）があり、現在３４８箇所の鉱泉が利用されている。１８０が浴用、１４８箇所が飲用、２０箇所が浴用、飲用双方に活用されている。ヨーロッパの温泉は概して泉温が低いが、ギリシャにはエデイプソスの７５℃の高温線やイカリアの高放射能泉など種類も多く、また湯量も豊富である。２０世紀初頭から半ばにかけて、温泉地が整備された。現在利用されている温泉地は３２箇所、なかでも設備の整った温泉地は１５箇所でギリシャ政府の管轄で、主に温泉治療や保養滞在施設として温泉シーズン（５月から１０月まで）は内外の利用者で賑わっている。

古代ローマの温泉文化

紀元前７５３年に建国され紀元５世紀に滅亡した古代ローマ帝国は帝国最後の５００年間に高度な温泉文化が発達した。ネロ帝、カラカラ帝、コンスタンチン帝などは競ってテルメ（公共温泉施設）を建てた。紀元３３０年にはローマでは、１１のテルメと８５０の公衆浴場があり、貧しい住民から入浴代をとらなかった。こうした公衆浴場は貧しく、狭い自宅に代わる屋外娯楽の場所として、大衆化していった。古代ローマ帝国の地中海・ヨーロッパ大陸の覇権の伴い、各地でテルメが建設され、現在のヨーロッパ温泉地の基礎を築いた。バーデンバーデン（**Aurelia Aquensis)**、エクス・レ・バン（**Aquae Gratinae)**、ブタペスト（**Aquineum),**ダックス（**A.Augustae),**バース（**Aquae Solis),**ヴィシー（**Aquae Calidae)**。

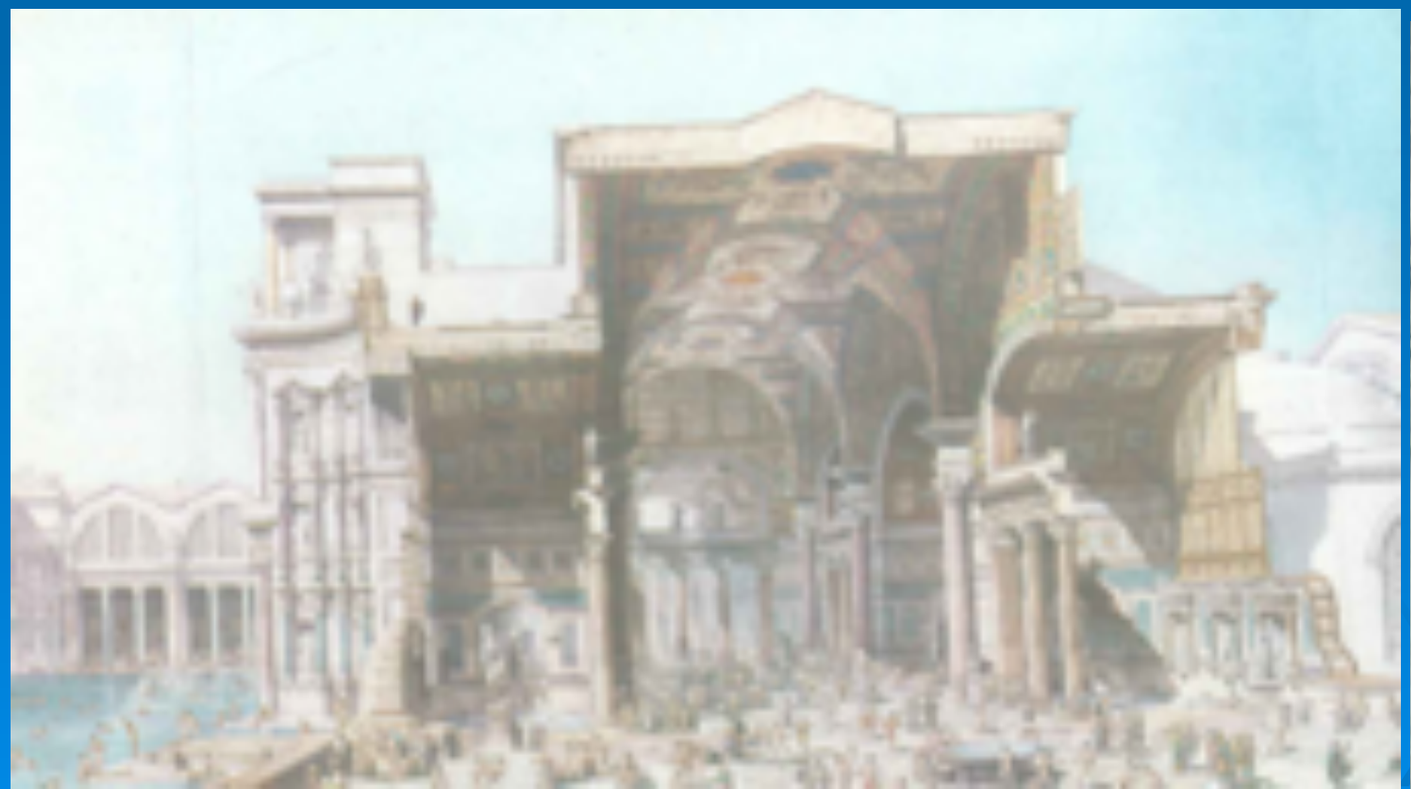
社交場の温泉文化

ローマ時代のテルメ（ローマ式浴場）はやがて、庶民向けの大衆浴場と分化していき、貴族や軍人階級の社交場として発展した。施設は大型化し、温泉入浴のシステム化が始まる。

- アポディテリウム（脱衣所）、
- フリギダりウム　（休養室）、
- テビダリウム（微温浴室：軽い発汗とマッサージ、香油塗り）
- カリダリウム（高温浴室）、
- ラコニクム（高温熱気浴）

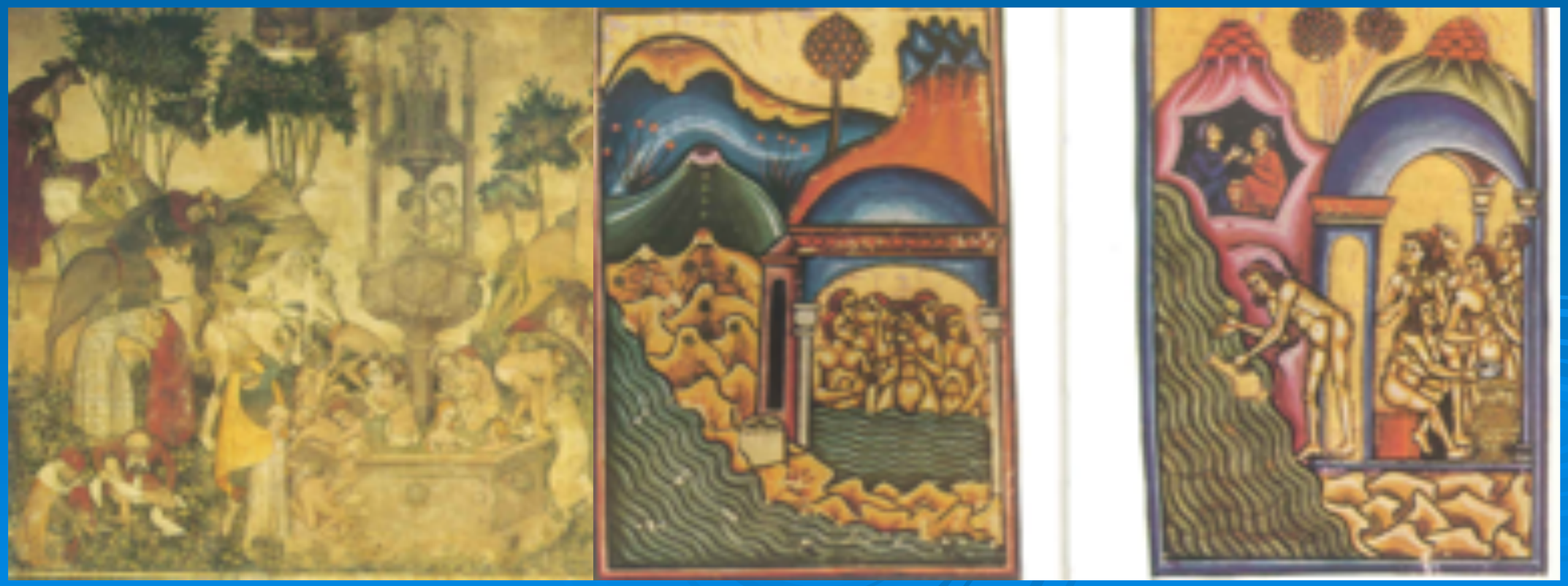
など各室に分かれて一回の入浴は何時間にもかかるようになった。

カラカラテルメ



ヨーロッパの温泉文化（紀元５００年～１５００年の中世の浴場）

「万人の為の温泉」としてヨーロッパの温泉文化の第二の繁栄期である。西ローマ帝国滅亡により、南北ヨーロッパの温泉文化は、新しい体系を発展させた。北から、古代ゲルマンとスラブの温泉の習慣が、南からローマの慣習が交じり合った。中世の都市文化の発展で、地方との貧富の差が生じた。浴槽のある浴室が裕福な市民の住宅に現れたのもこの頃からである。１４世紀ごろから裕福な上流階級が興り、よりよい健康生活を求め、地方の温泉地を発展させた。同時に古代ローマ時代の温泉地が復活した。中世ヨーロッパでは、温泉の持つ健康に対する効能について、医学的知識が深まり、水の乱用を戒め、公衆の健康教育が推進された。

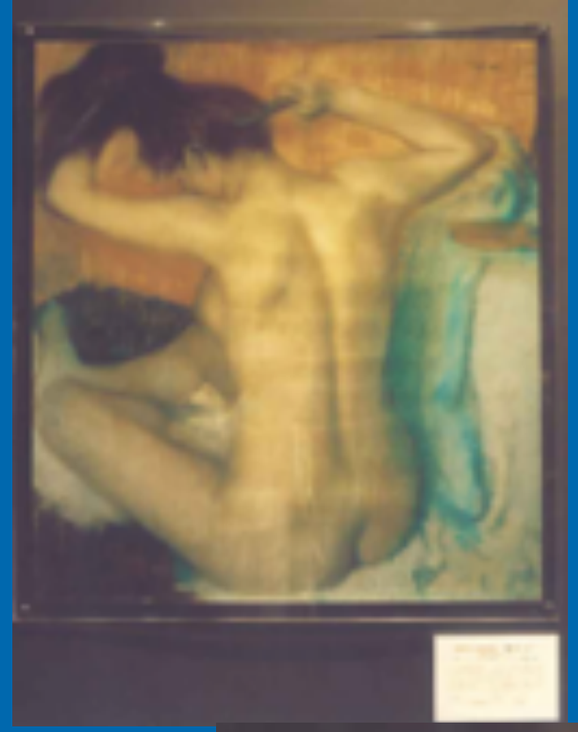


フランス　エクス・レ・バン

フランスで唯一の温泉病院（**Thermal National)**を中心にできたスイス国境に近く、ボージュ湖に面した国際的な温泉保養地。民間治療施設、滞在型ホテル、カジノなど保養公園にかこまれた市街地に点在している。アルプスや湖など優れた自然環境と滞在に快適な都市機能がミックスしている。

フランスーエクス・レ・バン

AIX les BAINS
Grande Bataille
FLEURS
LA SOCIÉTÉ



イタリアの飲泉文化　モンテカッティーニ

RECOARO

ACQUE
SALSO-
BROMO-JODICHE
TERME
BERZIERI
SALSOMAGGIORE

FONTE DI SALUTE
S. PELLEGRINO

ROCHEFORT

TERME
DI PORRETTA

SALSOMAGGIORE

TAORMINA

FONTI DEL CASINO DI BOARIO
VALLE CAMONICA
IGEA LA SUBLIME delle ACQUE da TAVOLA
ANTICA FONTE

VICHY
COMITE DES FETES

MONTECATINI
ITALY

フランスールルド　聖水信仰

Schinken-Grabst

KURMITTELHAUS

HOTEL

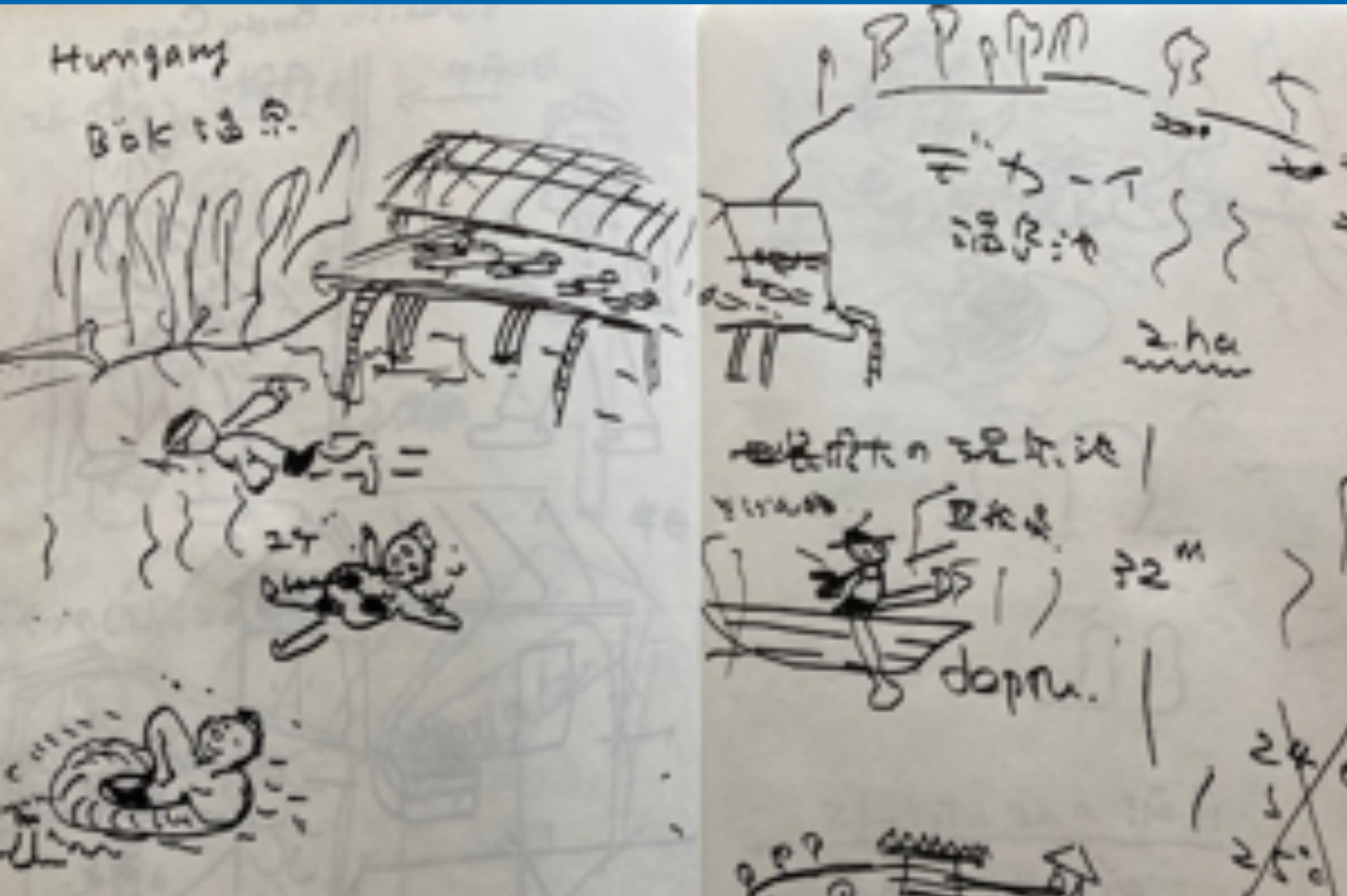
KURTHEATER

チェコ　カルロリヴァレー温泉　ガガーリン浴場

ハンガリー　ヘービス温泉湖

ゲレルト温泉

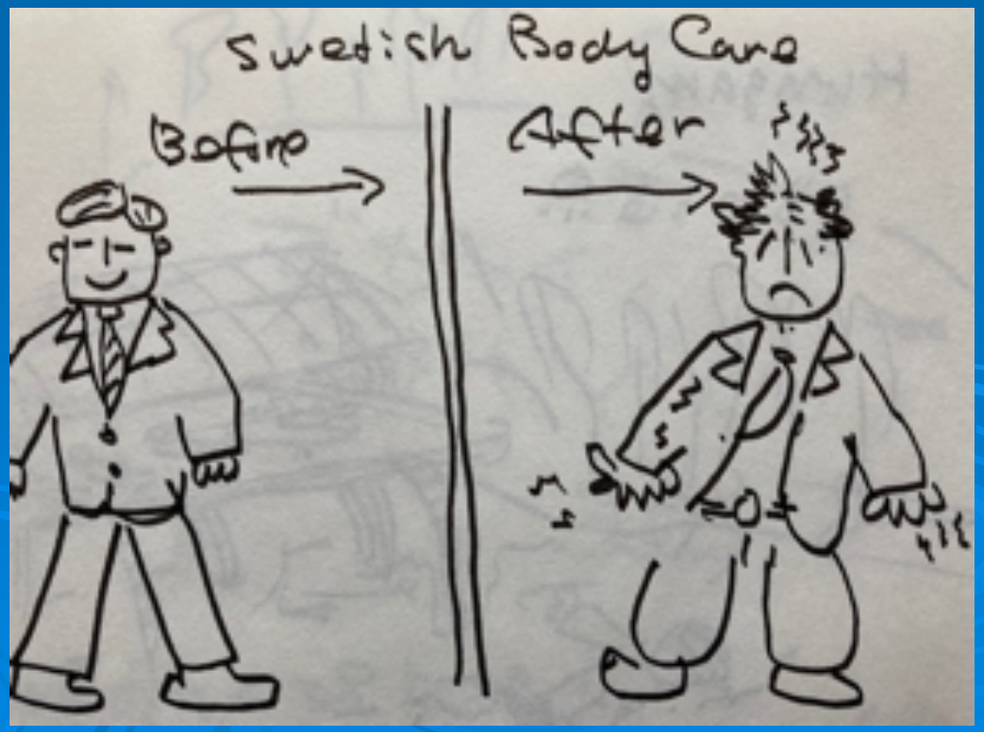
ハンガリー　ヘービス温泉湖



スウェーデンの温泉

スウェーデンのスパ"ヤネラギ"
おどろいた事!
デカイ
日本人

ストックホルム空港のトイレ
高くない
子供用


Swedish Body Care
Before
After

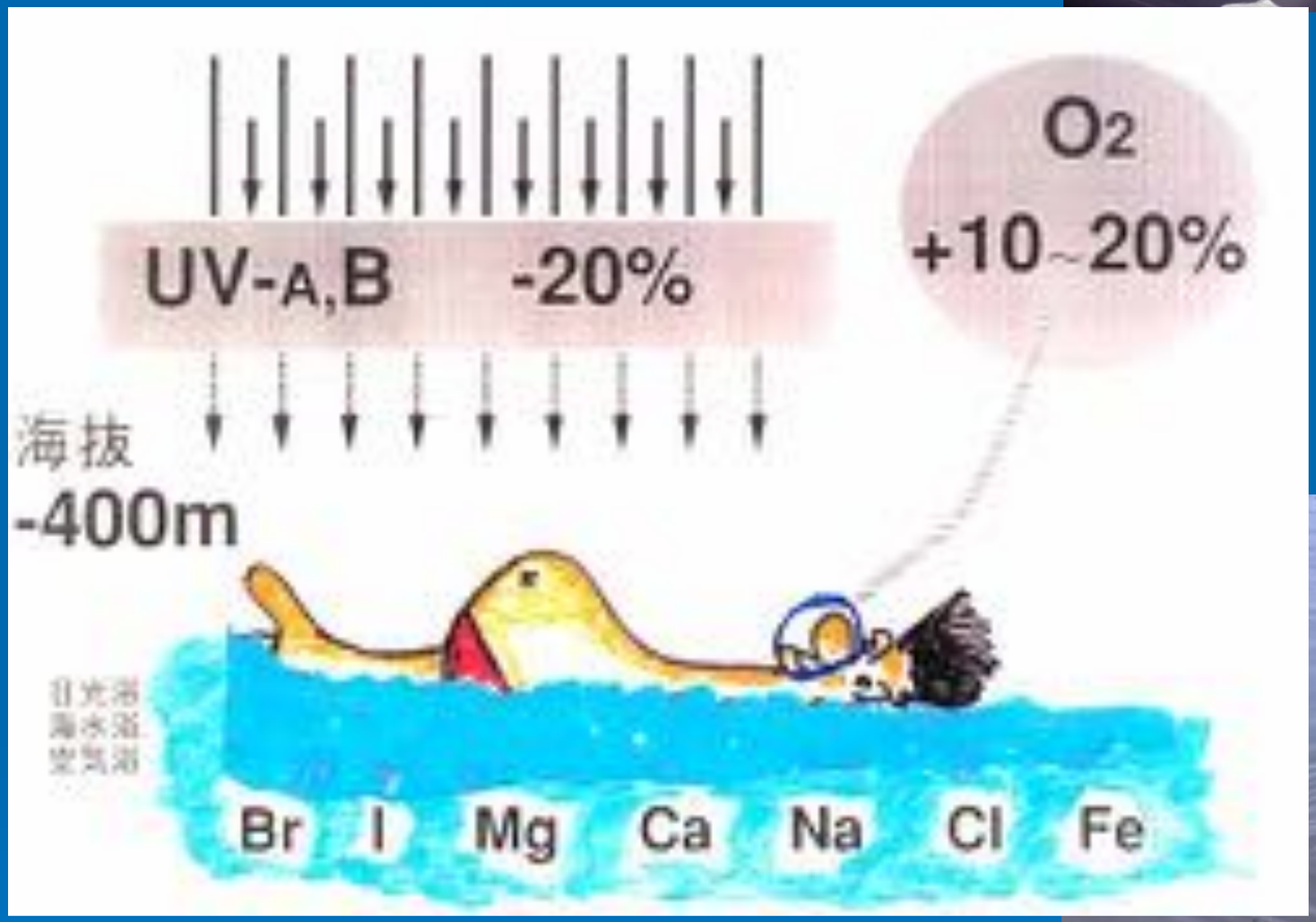
イスラエル－死海

イスラエル－　死海

TO JERUSALEM
FIELD SCHOOL
YOUTH HOSTEL
"PUNDAK" RESTAURANT
HOLIDAY VILLAGE
KIBBUTZ EIN GEDI
RESORT HOTEL
EIN GEDI SPA & RESTAURANT
TO MASADA & EILAT
D S E A
ISRAEL MAP
MEDITERRANEAN SEA
HAIFA
TIBERIAS
TEL-AVIV
JERICHO
JERUSALEM
EIN GEDI
ARAD
BE'ER SHEVA
EILAT

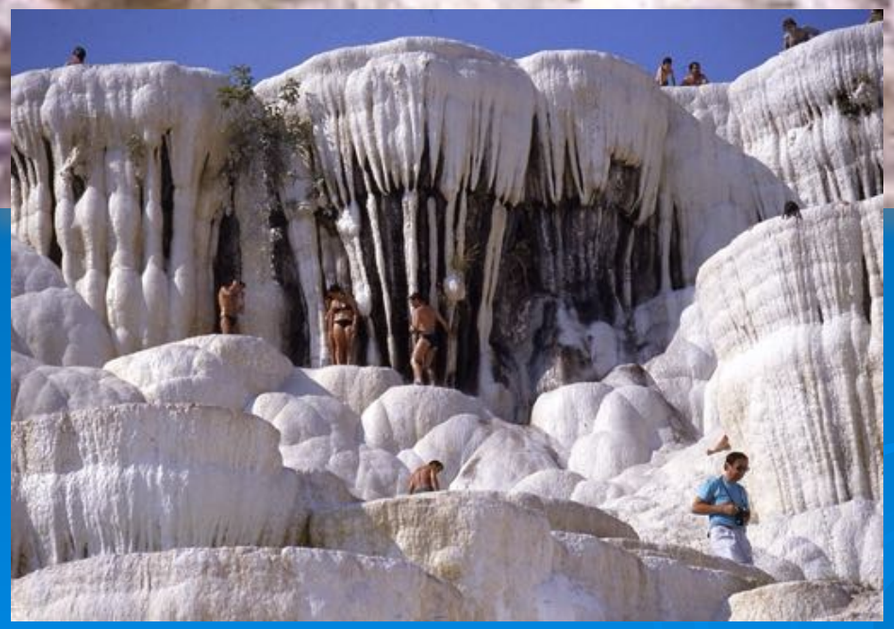
イスラエル―死海

エン・ゲジ温泉センター正面

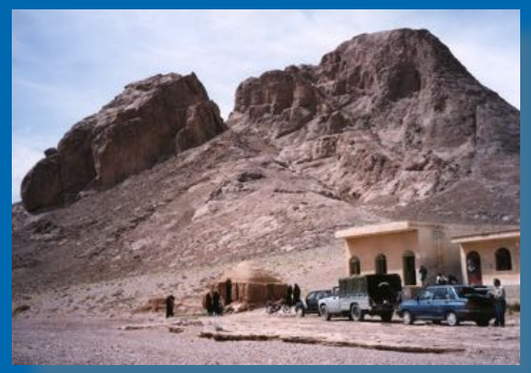

UV-A,B
-20%
O2
+10~20%
海抜
-400m
日光浴
海水浴
空気浴
Br
I
Mg
Ca
Na
Cl
Fe

トルコ　パッムカレ温泉

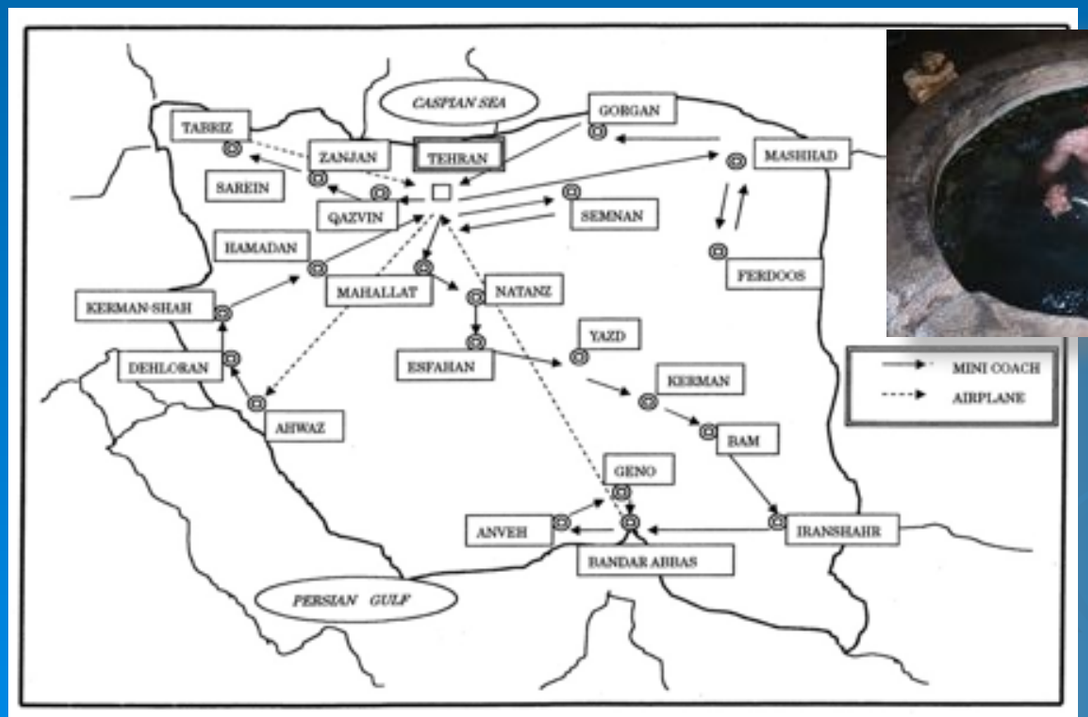
トルコ第二の都市イズミールから車で２時間、真っ白い丘陵は温泉に含まれる石灰が堆積したもの。パッムカレとは綿の城という意味。あたりは古代ローマ年の遺跡が点在する。

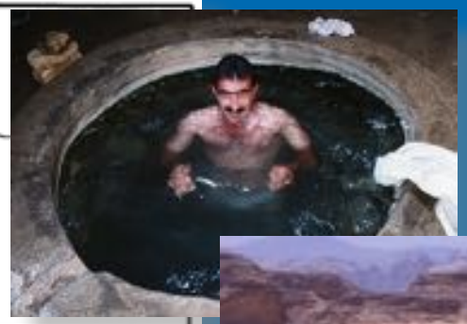


イランの温泉



２００４年イラン政府の招聘でイランの主要温泉地２３箇所を約一ヶ月、一万キロの調査を実施した。ペルセポリスなど歴史的遺産は多いが、イスラム化以前の温泉の遺跡や資料は殆ど見つけられなかった。ゾロアスター教（火、水、風、土）の土着的風習も殆ど痕跡を残していなかった。古代ペルシアから続くものとして、スキタイ文化から影響を受けた蒸気浴施設（ハマーム）は各地で見られたが、自宅に浴槽やシャワーを持てるようになった近代では、殆ど閉鎖かレストランなどに転用されていた。温泉は近隣の人々に大衆浴場としてまだ、機能は残っていた。文献によるとハマームと区別された温泉をもちいた「カプリカ」という施設では特に「病気治療」重要な要素であったと記述されていた。イスラム教では「清潔は信仰の半分」として礼拝ごとに水で体を清めるしきたりが徹底されていた。





ペルー　アグアス　カリエンテス

古代インカ時代から利用されている温泉でアグアスは水、カリエンテスは熱いという意味。世界遺産マチュピチュの近郊にある。

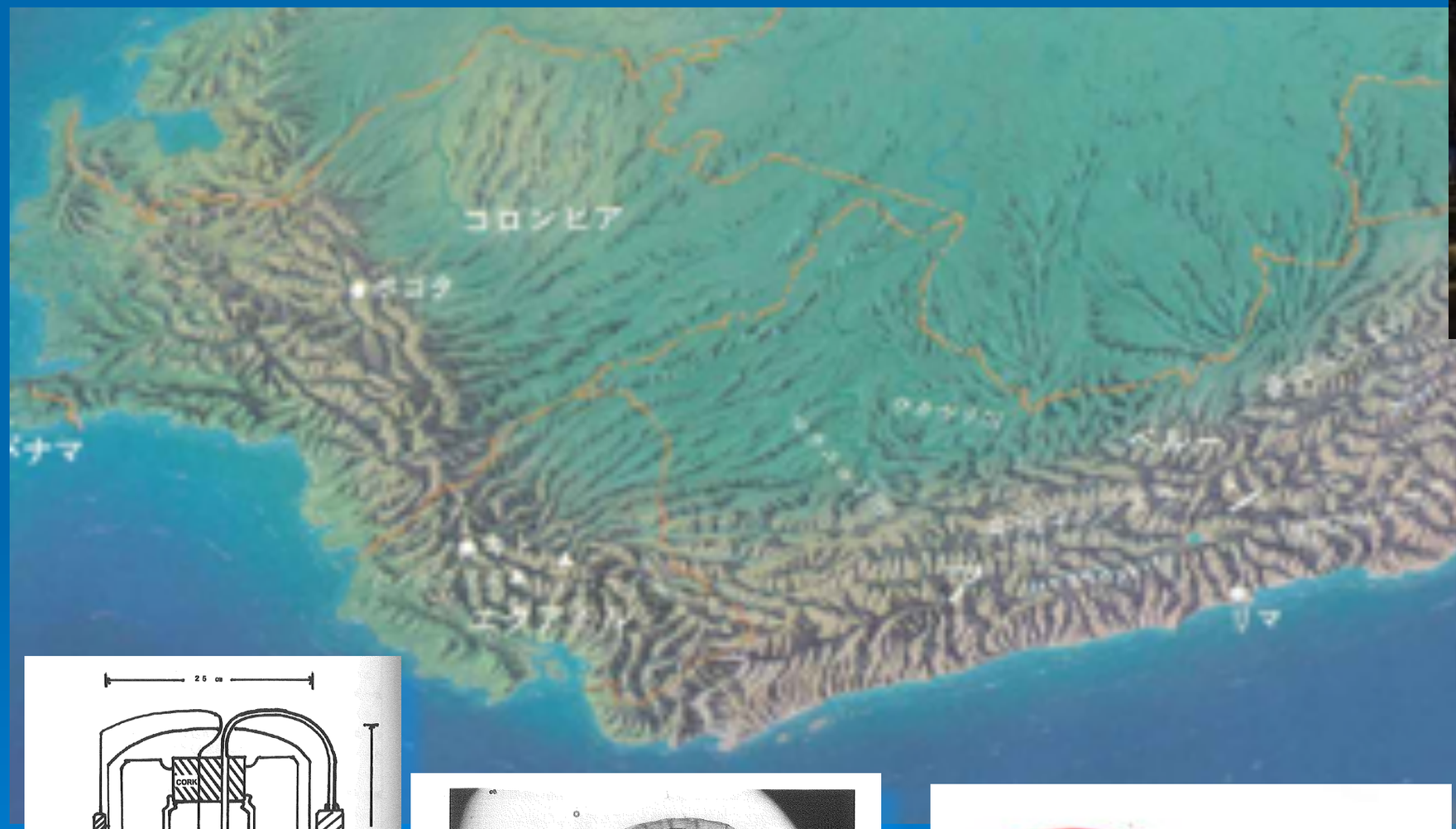
ペルー　ワラース

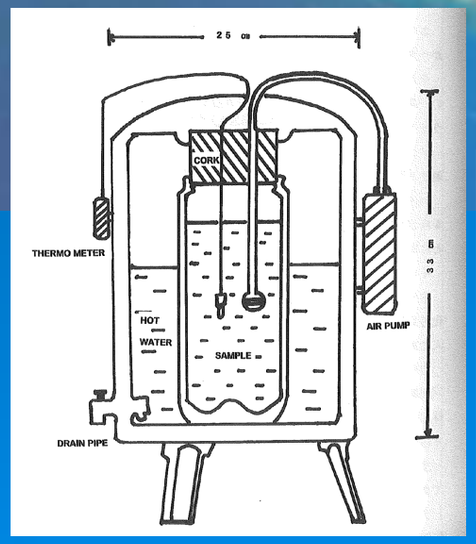
ペルーアンカシュ県ワラス市から北へ**30km**チャンコス温泉。南米ペルーアンデスの高峰に囲まれた標高**3050m**の温泉。

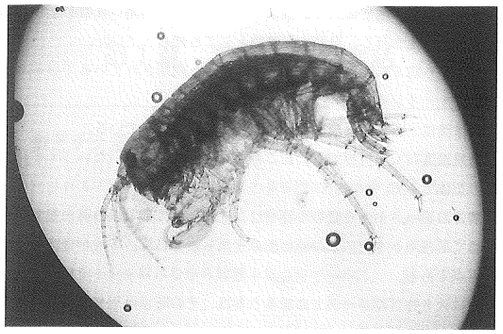
インカ帝国の首都
クスコ

ペルー　カハマルカ温泉

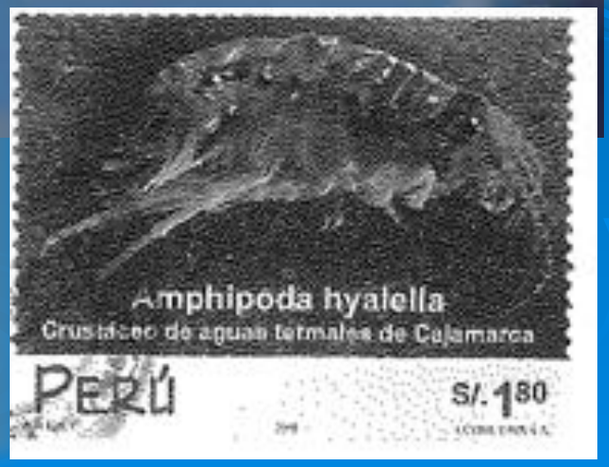
標高３０００m古代インカ帝国支配者の湯治温泉地
高温のため冷ますための屋外プールが４つある。それら７８℃の温泉（高地のため沸騰している）のなかに生息する不思議なエビの発見。
話題になり切手になった。



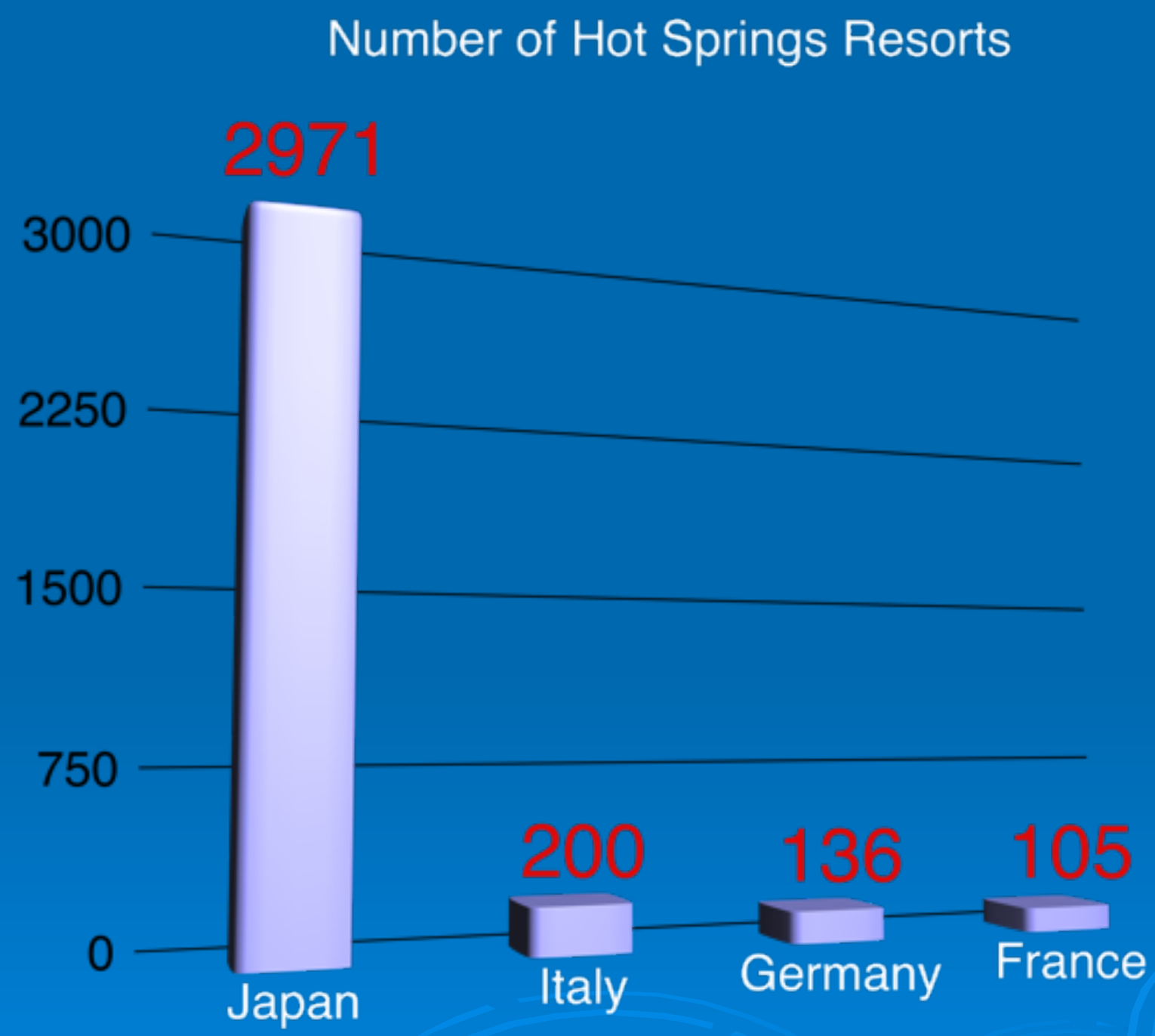


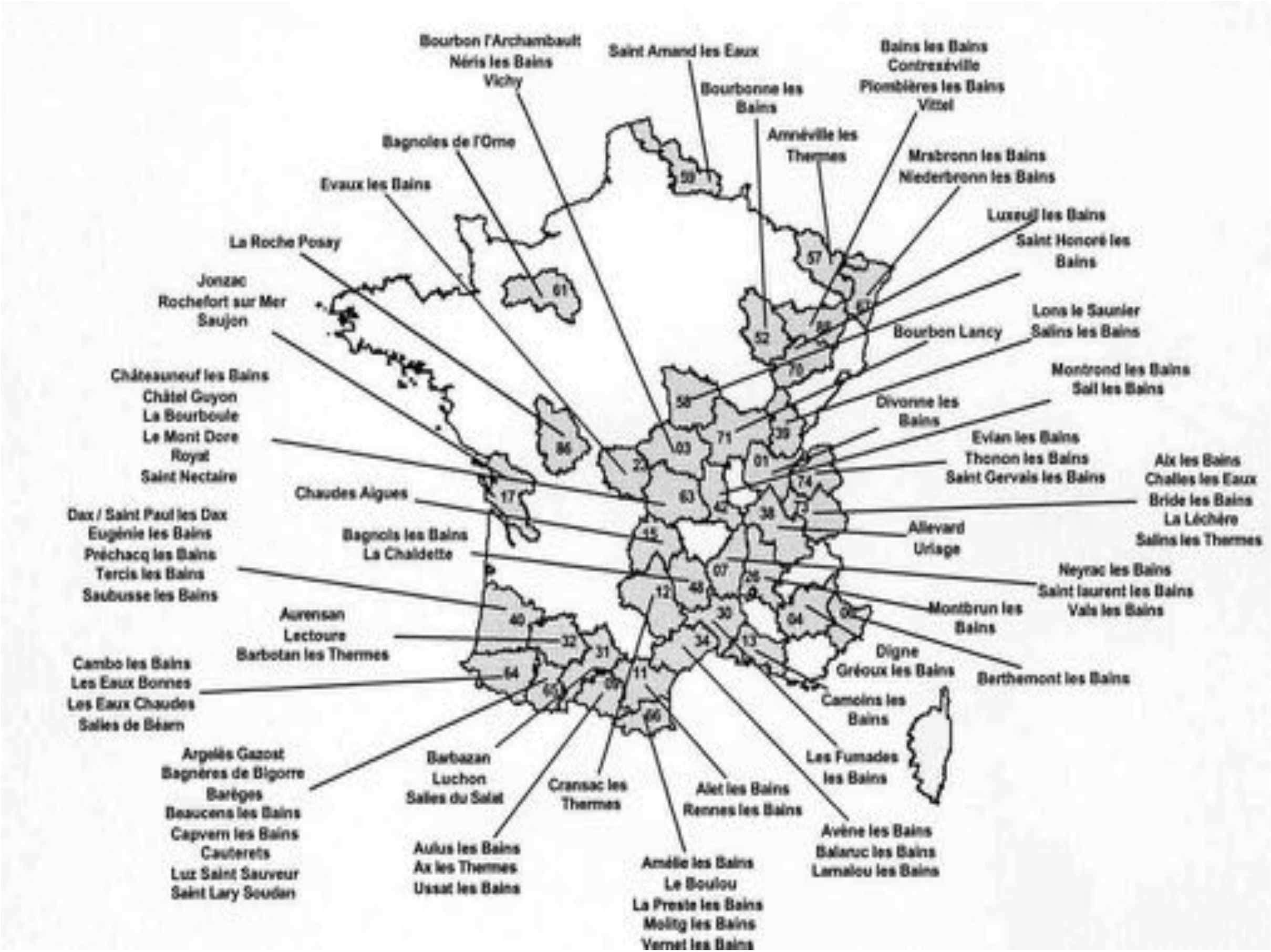


アチチ君の現物（顕微鏡写真）



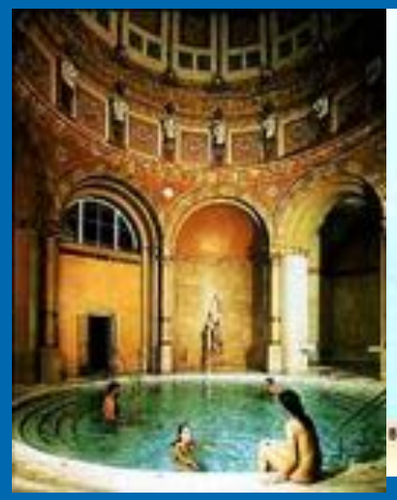
欧州と日本の温泉地数比較




Bourbon l'Archambault
Néris les Bains
Vichy
Saint Amand les Eaux
Bourbonne les Bains
Bains les Bains
Contrexéville
Plombières les Bains
Vittel
Amnéville les Thermes
Mrsbronn les Bains
Niederbronn les Bains
Bagnoles de l'Orne
Evaux les Bains
Luxeuil les Bains
Saint Honoré les Bains
La Roche Posay
Jonzac
Rochefort sur Mer
Saujon
Lons le Saunier
Salins les Bains
Bourbon Lancy
Châteauneuf les Bains
Châtel Guyon
La Bourboule
Le Mont Dore
Royat
Saint Nectaire
Montrond les Bains
Sail les Bains
Divonne les Bains
Evian les Bains
Thonon les Bains
Saint Gervais les Bains
Aix les Bains
Challes les Eaux
Bride les Bains
La Léchère
Salins les Thermes
Chaudes Aigues
Dax / Saint Paul les Dax
Eugénie les Bains
Préchacq les Bains
Tercis les Bains
Saubusse les Bains
Bagnols les Bains
La Chaldette
Allevard
Uriage
Neyrac les Bains
Saint laurent les Bains
Vals les Bains
Montbrun les Bains
Aurensan
Lectoure
Barbotan les Thermes
Digne
Gréoux les Bains
Berthemont les Bains
Cambo les Bains
Les Eaux Bonnes
Les Eaux Chaudes
Salies de Béarn
Camoins les Bains
Les Fumades les Bains
Argelès Gazost
Bagnères de Bigorre
Barèges
Beaucens les Bains
Capvern les Bains
Cauterets
Luz Saint Sauveur
Saint Lary Soudan
Barbazan
Luchon
Salies du Salat
Cransac les Thermes
Alet les Bains
Rennes les Bains
Avène les Bains
Balaruc les Bains
Lamalou les Bains
Aulus les Bains
Ax les Thermes
Ussat les Bains
Amélie les Bains
Le Boulou
La Preste les Bains
Molitg les Bains
Vernet les Bains

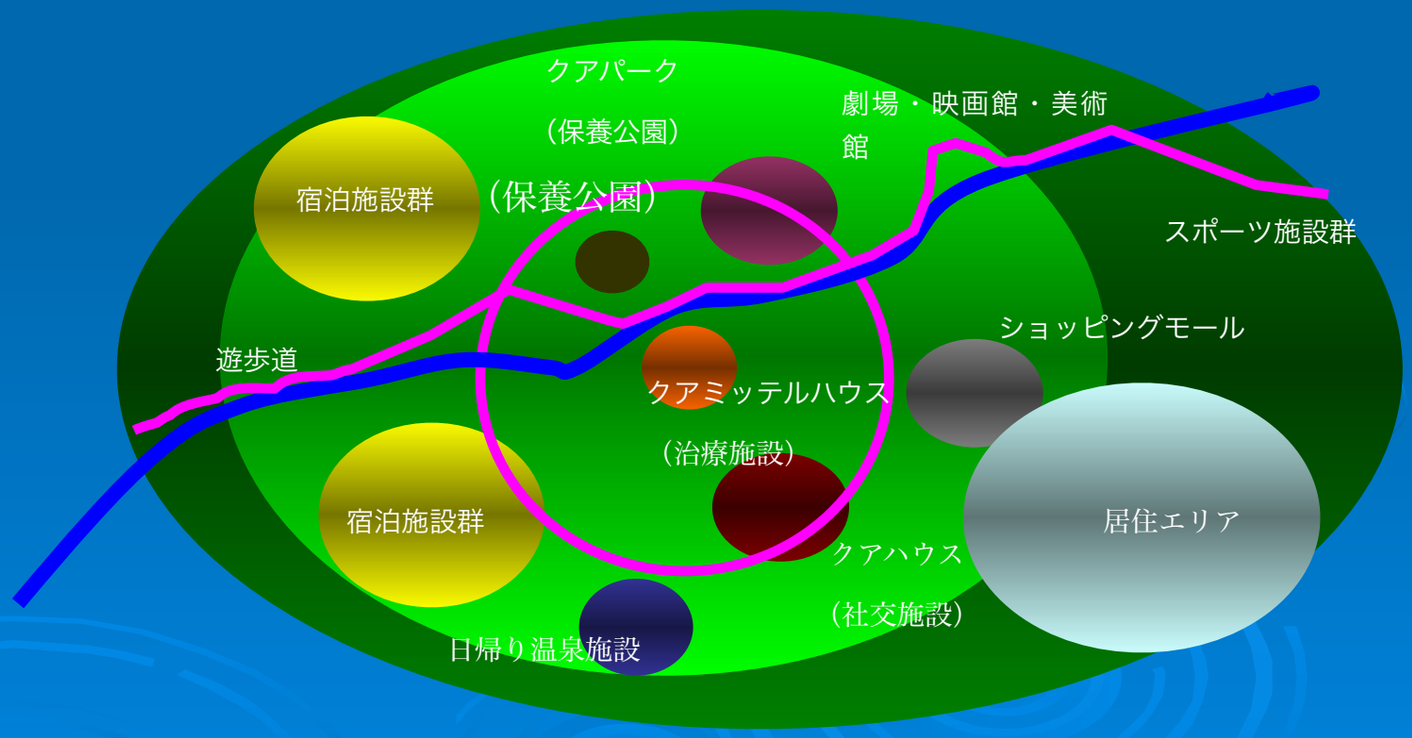
ヨーロッパ温泉保養地の施設と環境１

- 温泉保養地の施設と環境
  - 野外環境
    - 遊歩道
    - 公園
    - 広場
  - 温泉施設
    - レジャー用
    - 健康増進用(プログラム付)
    - 治療用
  - 宿泊施設
    - ホテル・ペンション
    - 長期滞在アパート
    - ホームステイ
  - 交流・レジャー施設
    - 会議・集会・談話
    - 音楽ホール・劇場・映画
    - カジノ
  - スポーツ施設
    - 自然体験(乗馬・ジョギング等)
    - ゴルフ・サッカー・テニス等
  - 生活サービス施設
    - 案内
    - 店舗
    - レストラン

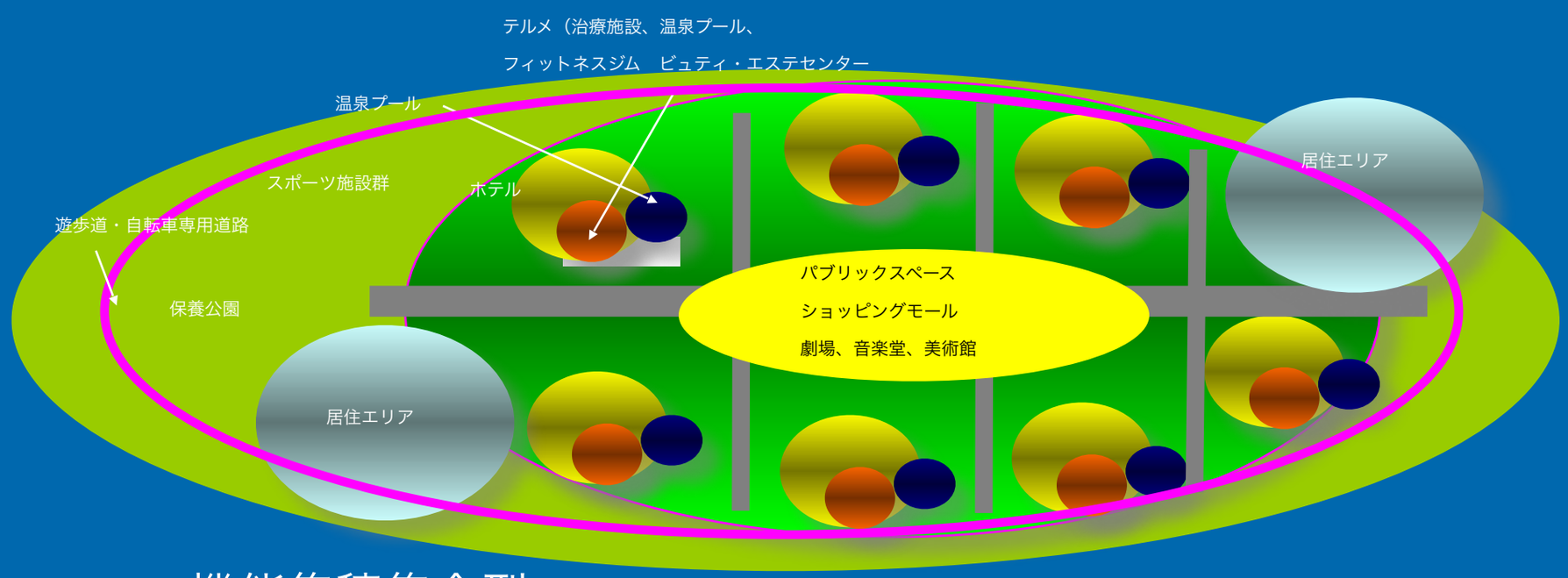


機能分散型

ドイツ　バーデン・バーデン

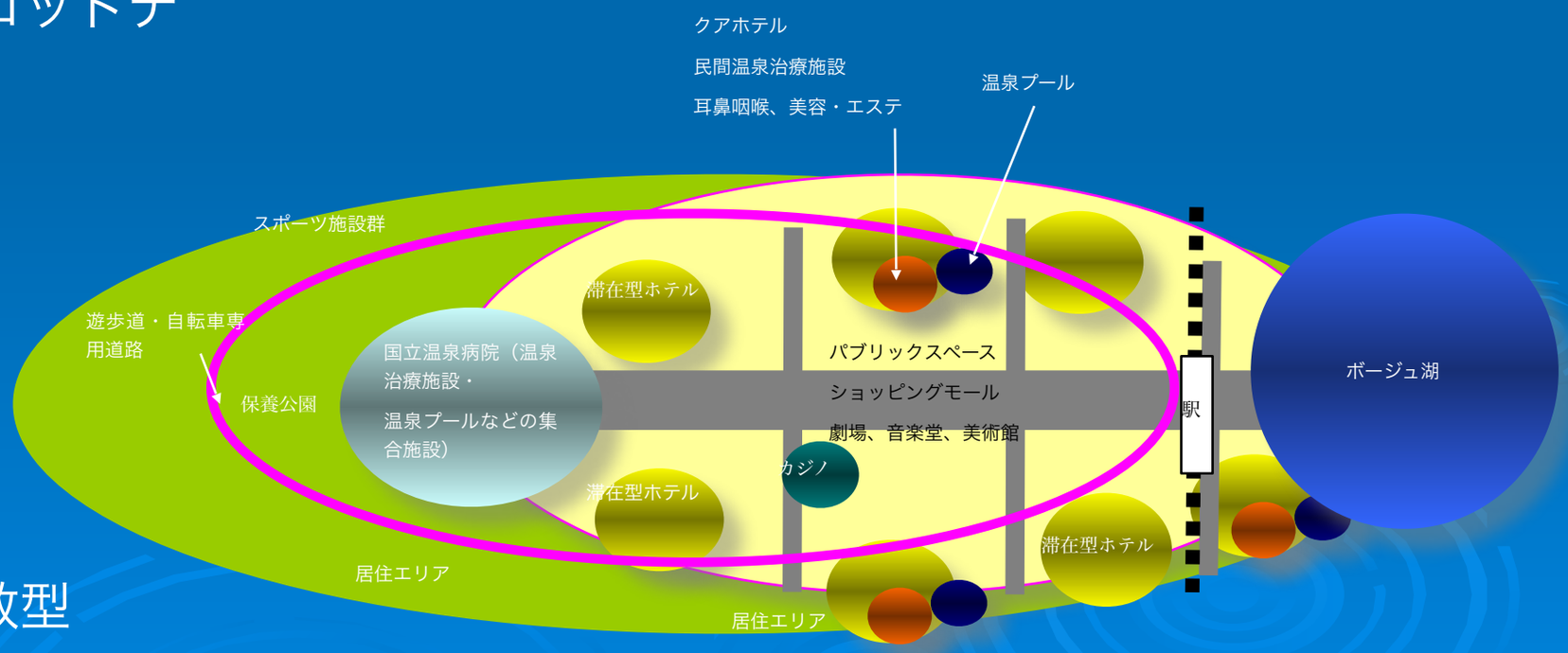


ヨーロッパ温泉保養地の施設と環境２



機能集積集合型

イタリア　アバノ・モンテグロットテルメ



温泉病院主導の機能分散型

フランス　エクス・レ・バン

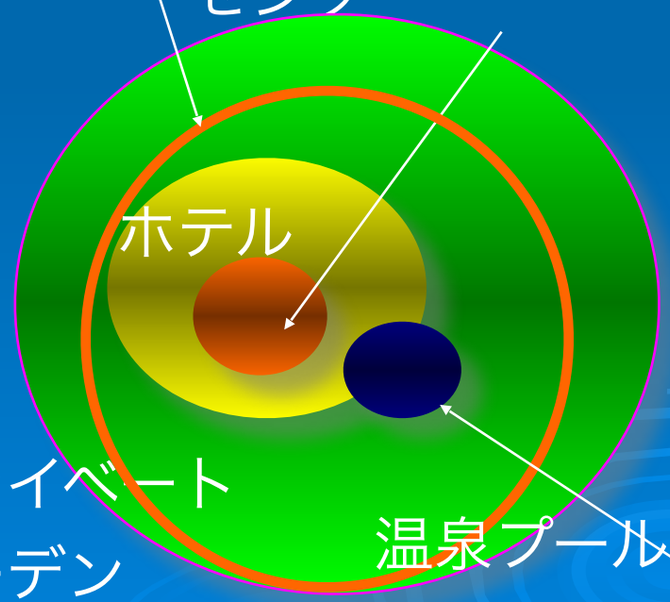
ヨーロッパ温泉保養地の施設と環境3

機能集積単独型

事例ー**Grotta Giusti Hotel &Terme Italia**

命の小路(遊歩道)

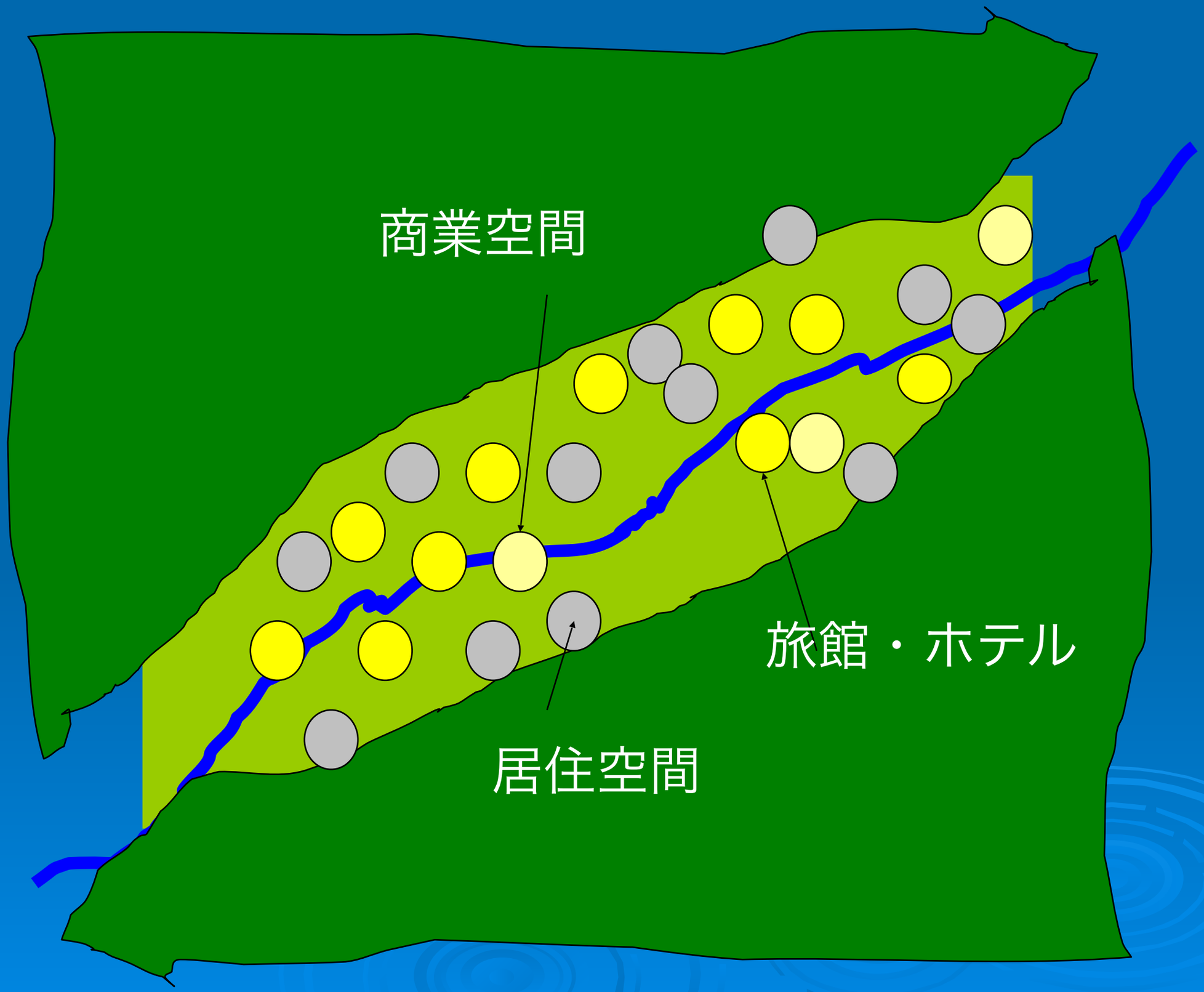
テルメ
（治療施設、温泉プール、フィットネスジムビュティ・エステセンター



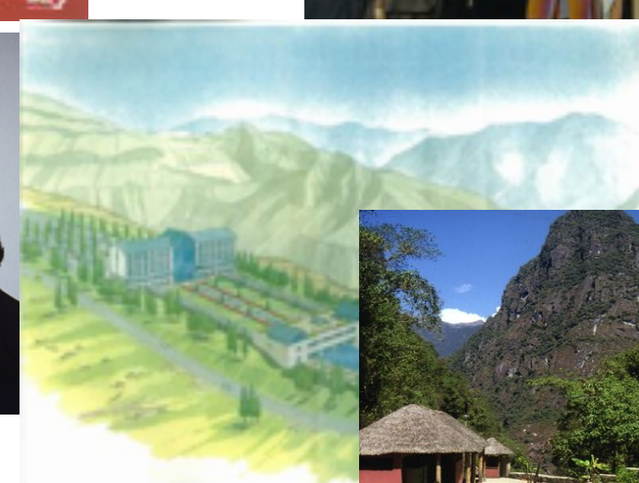
プライベートガーデン

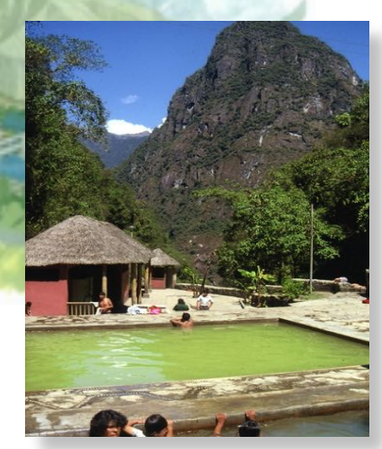
温泉プール
（日帰り温泉施設）

日本の温泉地の空間構成ー機能混在分散型



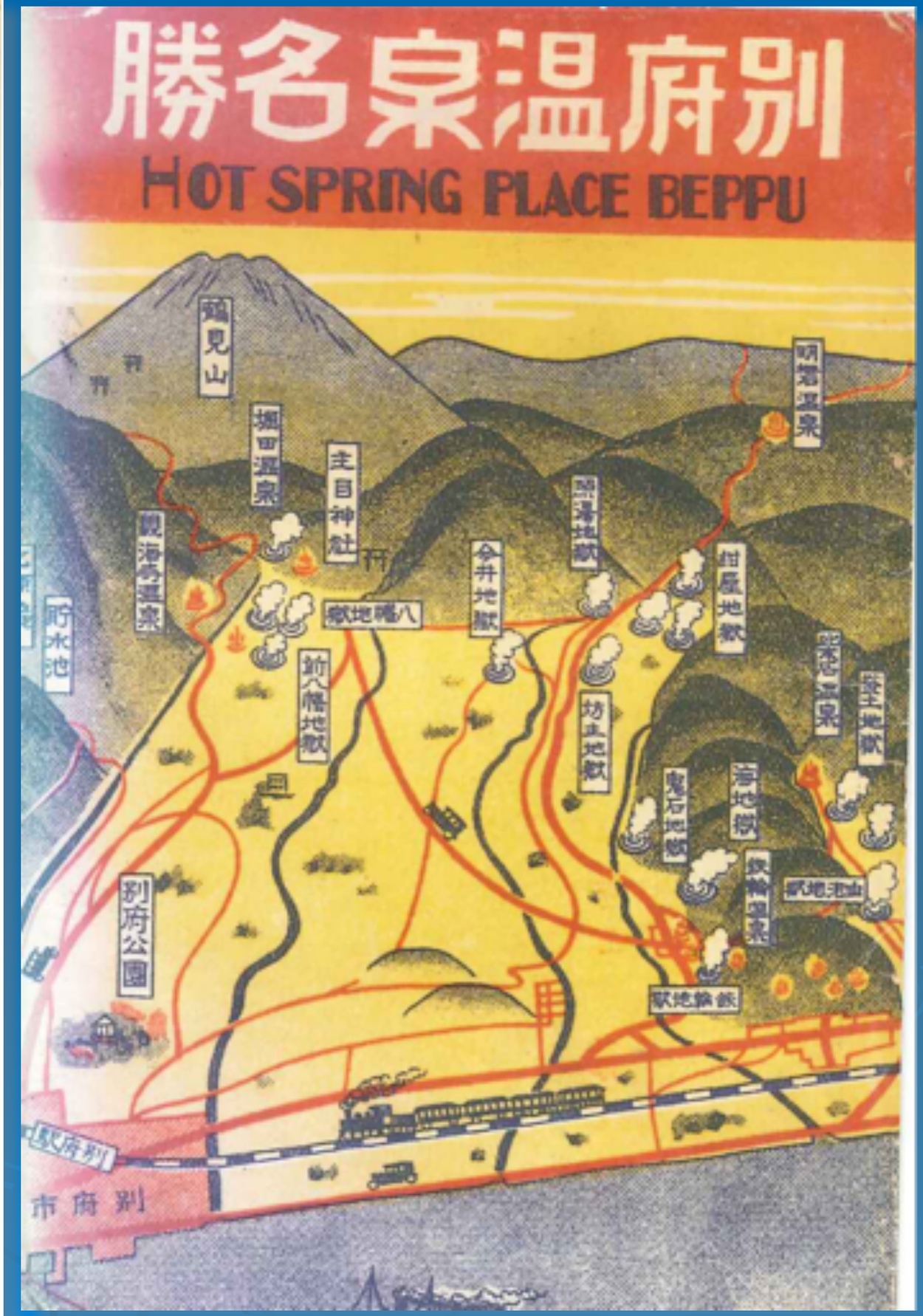
世界の温泉地との交流調査・研究

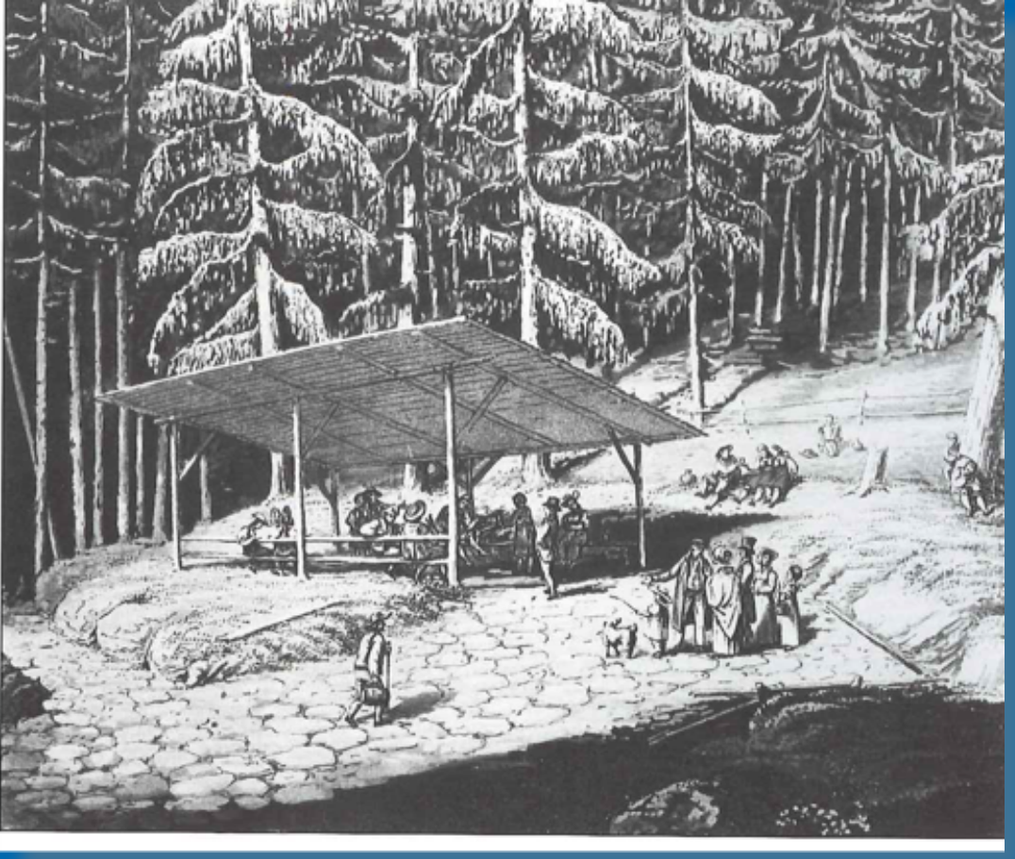


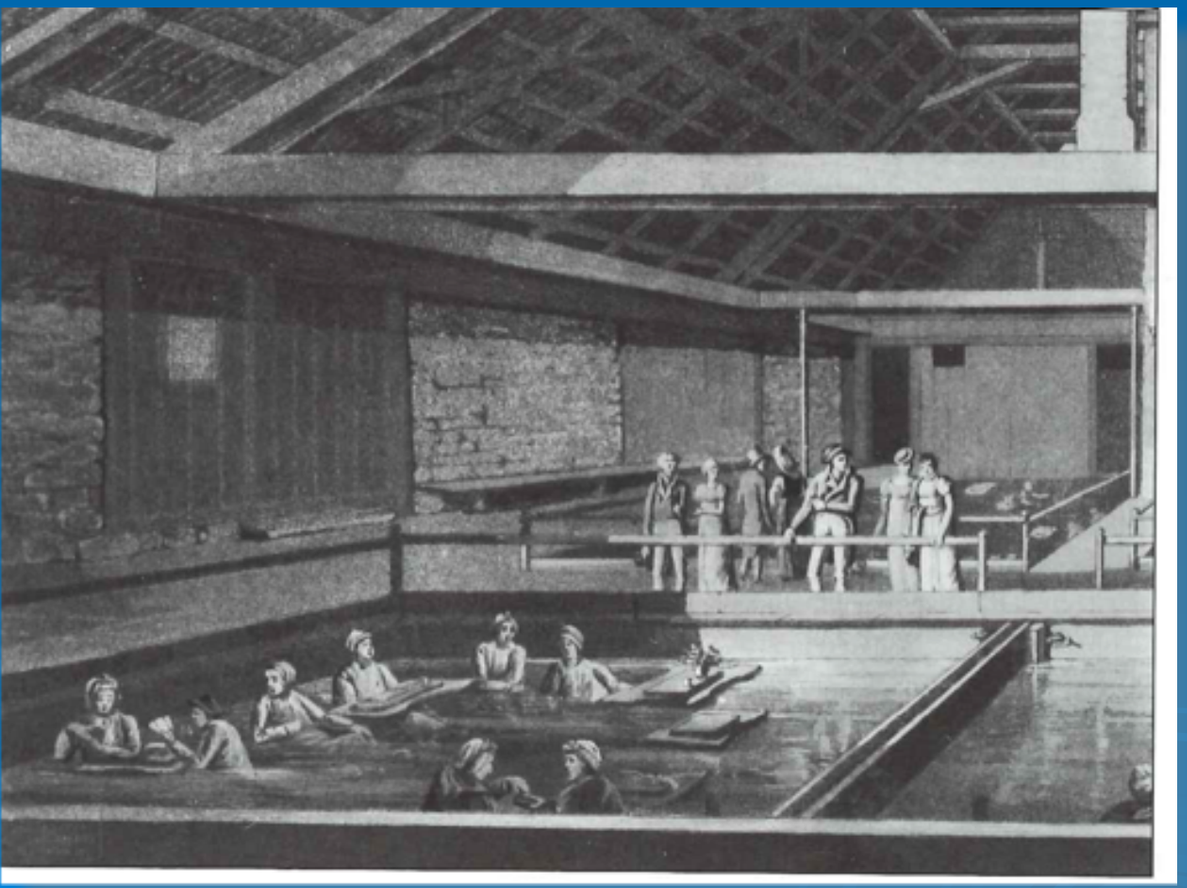


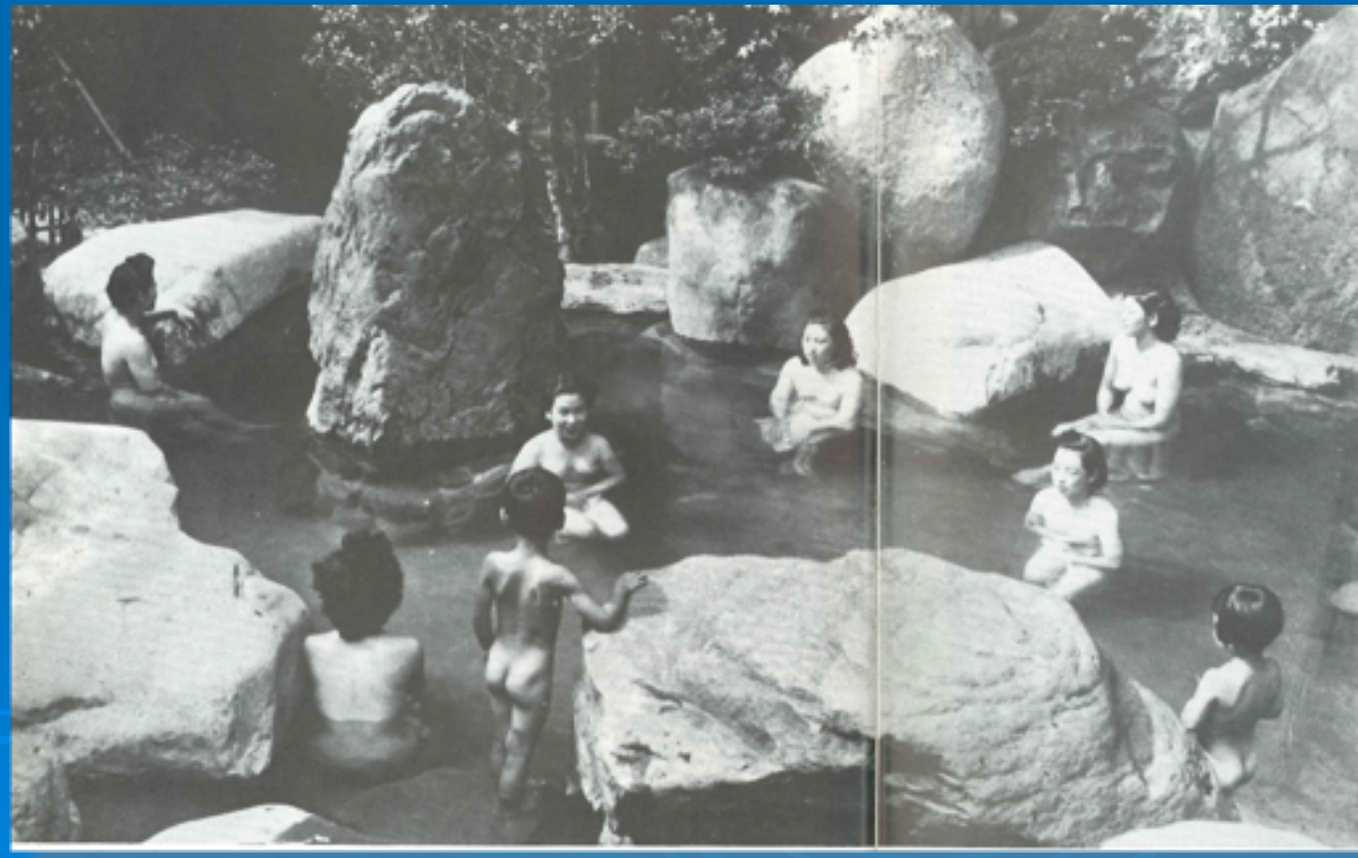
国際温泉気候連合アジア・太平洋協議会

THERMALKURORT
BADEN
SCHWEIZ
GRAPH. ANSTALT J.J. WOLFENSBERGER, ZÜRICH


別府温泉名勝
HOT SPRING PLACE BEPPU
鶴見山
堀田温泉
主目神社
観海寺温泉
八幡地獄
金井地獄
明礬温泉
明礬地獄
紺屋地獄
貯水池
鉄輪地獄
坊主地獄
鬼石地獄
海地獄
別府公園
別府駅
市府別







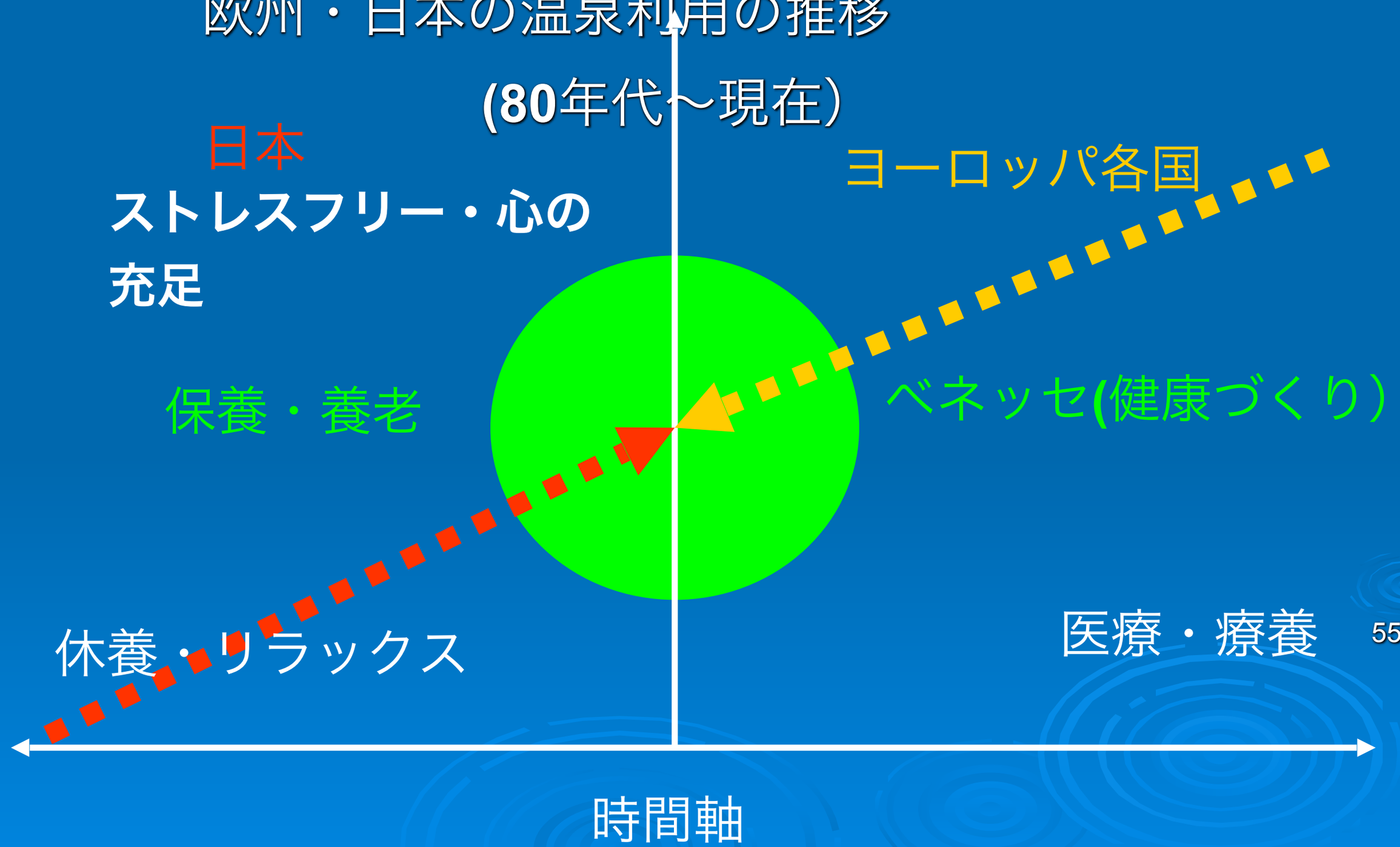
クアからベネッセ（ウエルネス）へそして
ポスト・ウエルネス

イタリア　グロッタ・ジュスティテルメ
モンテカティーニテルメの近くにある日本人にも大人気のエレガントな四星ホテル。
イタリア有数のファンゴ（泥）パックをはじめとし多彩なトリートメントプログラムがある。敷地内に発見された洞窟（グロッタ）は天然サウナとして有名。
イタリア　アバノ・モンテグロットテルメ
ベニスから車で５０分、パドバ近郊で、ユーガニ丘陵麓の、
イタリアを代表する温泉保養地。ホテル数５４軒、年間入込み４５万人、
平均滞在日数８日（計３６０万泊）。産官学の協力が特徴。

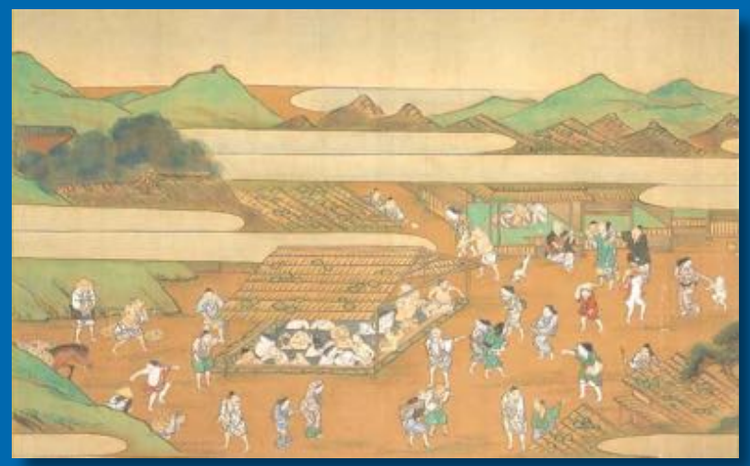
ポスト・ウエルネスとして
注目される日本の温泉文化

欧州・日本の温泉利用の推移

(80年代～現在)



IUCN World Conservation Congress Hawai'i 2016



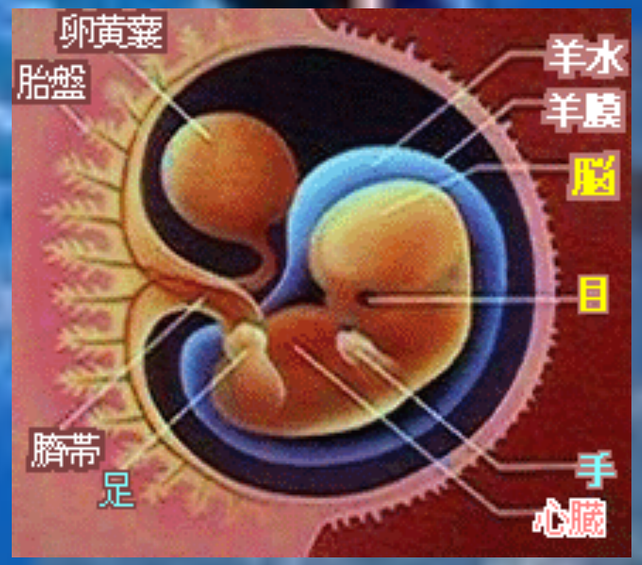
IUCN国際自然保護会議 ハワイ2016

日本政府プレゼンテーション 'JINEN & ONSEN`

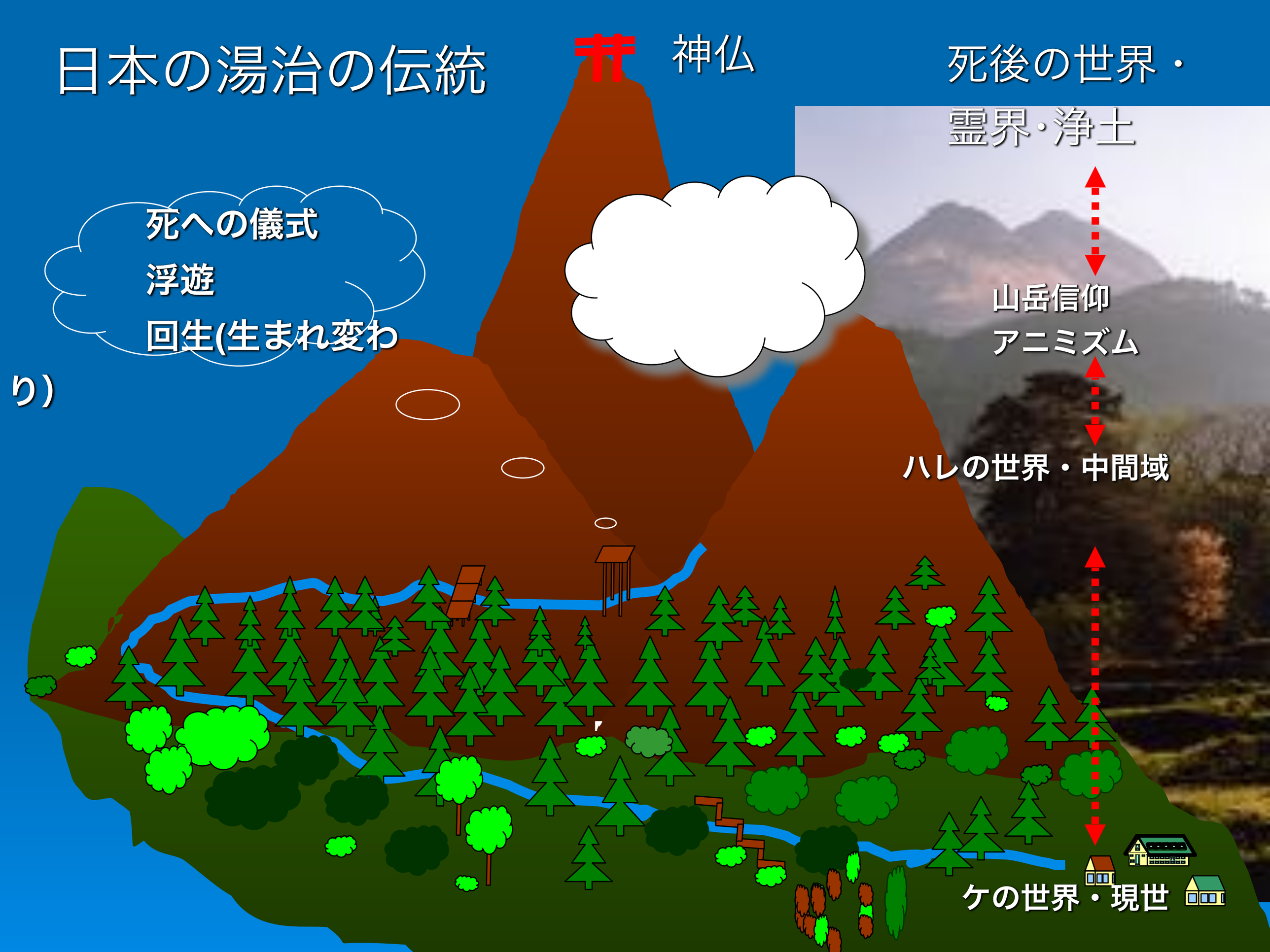
地球の記憶、命の記憶

Onsen and Amniotic Water

- 仏教での年齢の数え方は＋１？
- 赤ちゃんはお母さんのおなかの中（羊水）で１０月１０日過ごして誕生する。
- そのあいだ２個の細胞から５０兆個の細胞へと発達する。
- ３５億年の生命進化の過程を経て人間となる。（魚類ー両棲類ー爬虫類ー哺乳類）
- 地球は水の惑星　その海から生命は生まれた。
- 体内の小さな地球　：成人の６５％は水。（赤ちゃんは約７５％）



日本の湯治の伝統



わが国の伝統的な湯治の精神

神仏

死・霊界･浄土

山岳信仰
アニミズム

湯治の風習

ハレの世界・中間域

死への儀式
浮遊
回生
(生まれ変わり)

ケの世界・現世

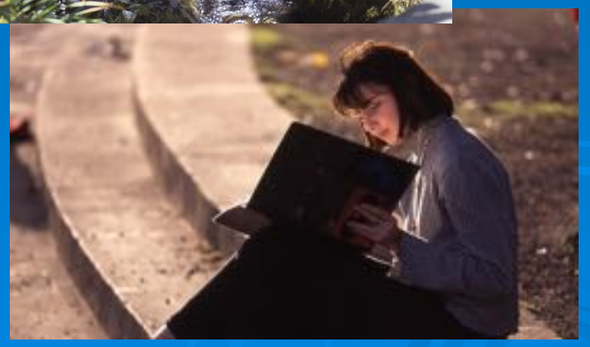
Since 1986

第三部

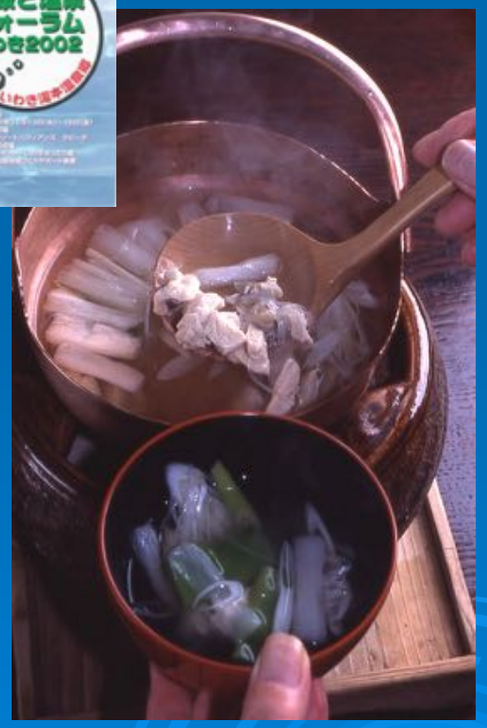
社会化

Socialization

世界の温泉地の元気いっぱいの子供達



国内での啓蒙普及ーフォーラム開催



2000　新世紀創造祭

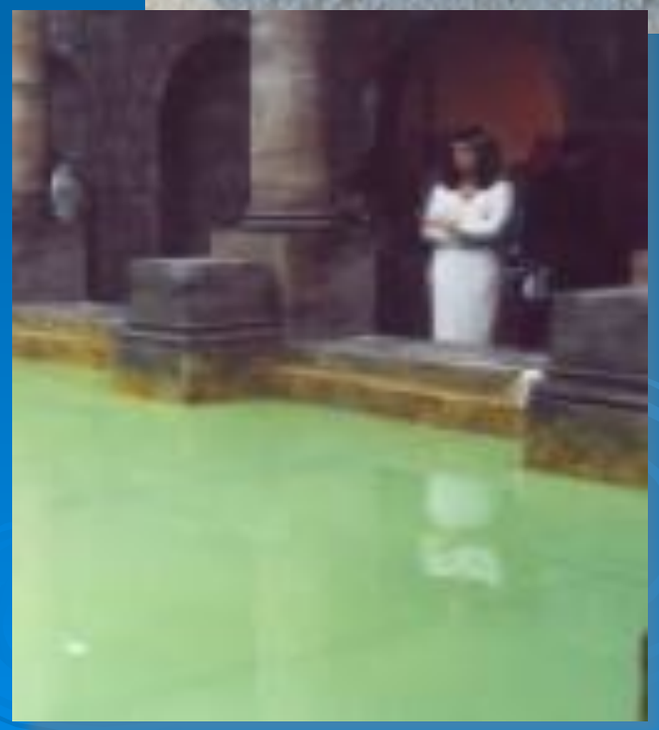
健康と温泉
2000

健康と温泉 FORUM2000

The World Spa Museum & Messe

健康と温泉
2000

世界温泉ミュージアム＆メッセ
The World Spa Museum & Messe



温泉を取り巻く今日的課題

第５９回月例研究会配布資料より転用
2018.1.28

温泉地力シンポジウム（仙台市）資料　合田純人
2018.2.29

医療・福祉・介護
(厚生労働省)

医療費控除
温泉療法医

ヘルスケア産業

国民保養温泉地

自然
(環境省)

温泉

産業・サービス
(経済産業省)

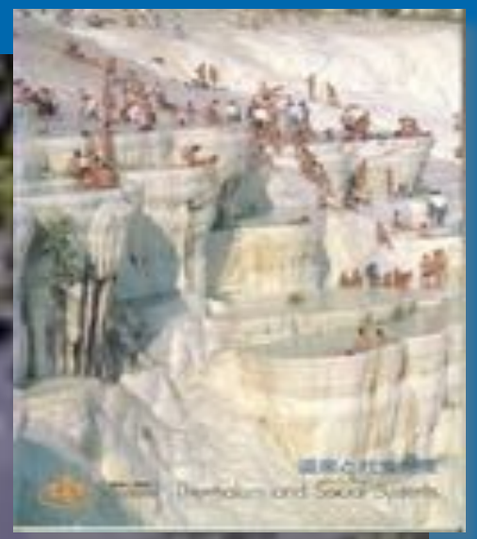
地域資源

国立公園活用

観光
(国土交通省)

ヘルスツーリズム
国家成長戦略
インバウンド戦略

出版



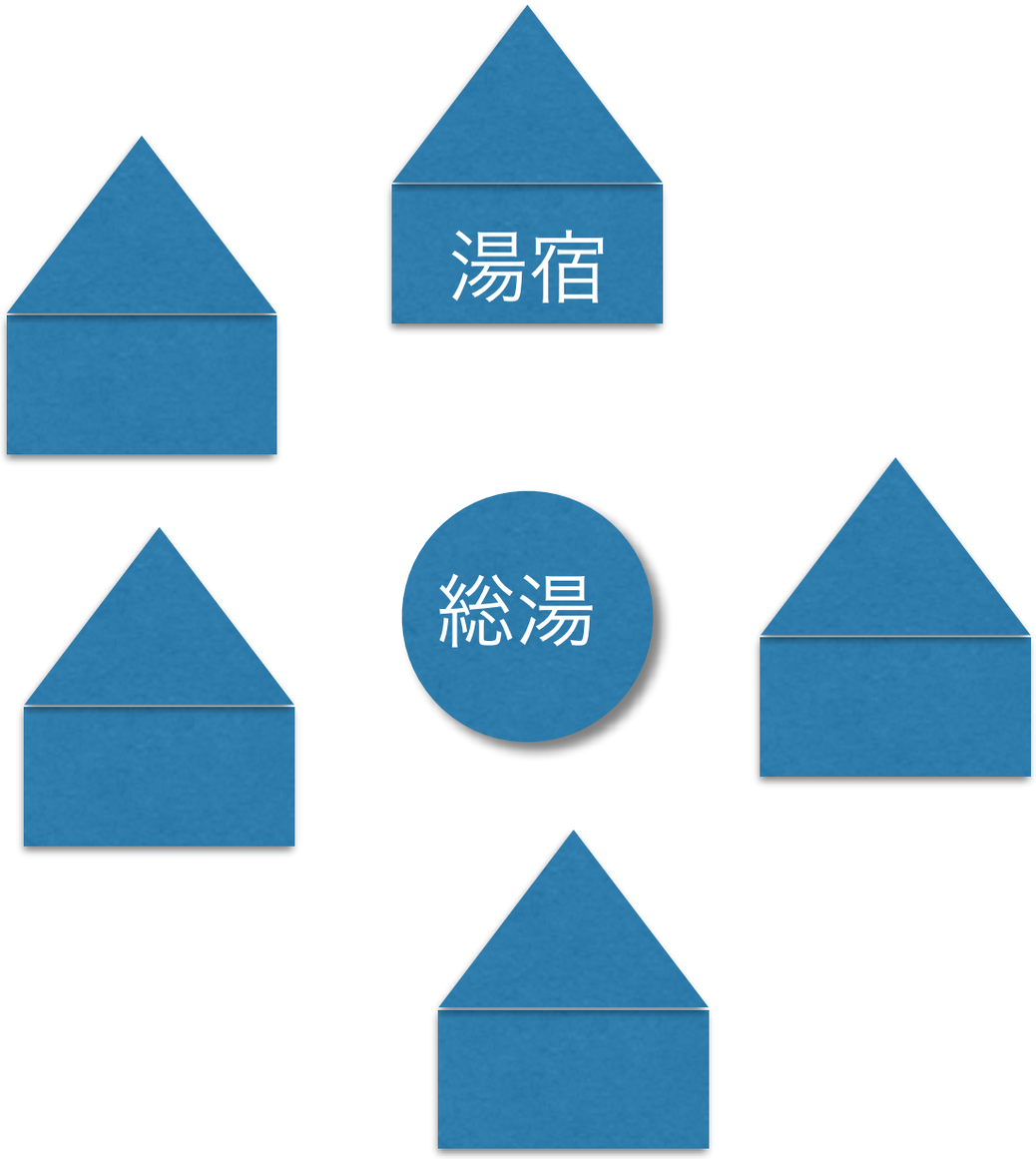
里山温泉アカデミー「いのちの居場所」

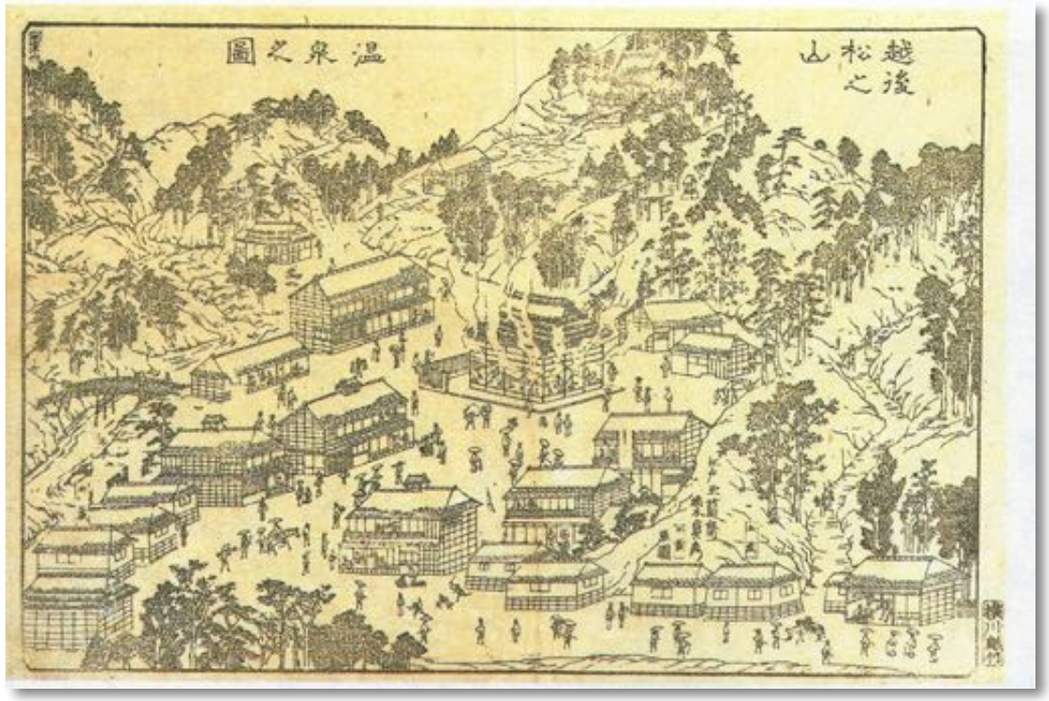
ONSEN
SATOYAMA
ACADEMY

健康と温泉フォーラム2012
温泉里山アカデミー「日本の温泉の改革を考える」

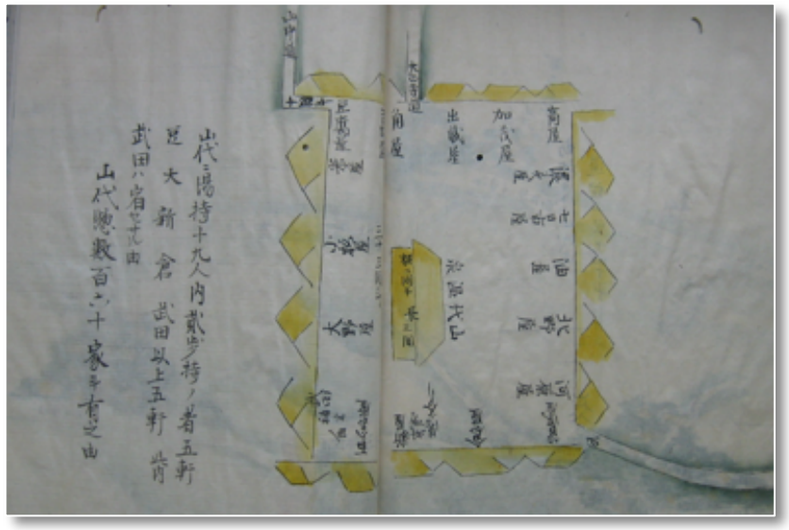
平成24年10月29日（月）26日（火）
三松ハウス（新潟県十日町市松之山中荷川）
主催：NPO法人健康と温泉フォーラム、NPO法人越後妻有里山協働機構、株式会社DIP研究所

温泉地の考察





新潟県松之山温泉



石川県山代温泉

F.1

温泉地力シンポジウム（仙台市）資料　合田純人
2018.2.29

温泉地分析の基本16要素（モデル試案）

１．地形要因
地形、高度、山岳、海浜、河川、森林

２．気候・風土要因
温暖、寒冷、風向き、日照、湿気

３．地理・歴史要因
街の形成、産業、交通、統治

４．人文要因
風俗・風習、文化、宗教、慣習

５．温泉要因
泉質別効能、薬効と伝承湯治スタイル

６．滞在空間要因
湯治(療養）、（保養）、（休養）、観光

７．施設要因
単独施設、温泉街、都市型

８．温泉管理要因
循環型、かけながし型、加温・加水型

９．運営要因
公営、組合、単独、グループ、混在型

１０．温泉配水要因
集中管理方式、１源泉１施設型、混在型

１１．風俗規制要因
条例規制、自主規制、分離型、混在型

１２．組合運営要因
民族系限定、外資系協調、混在型

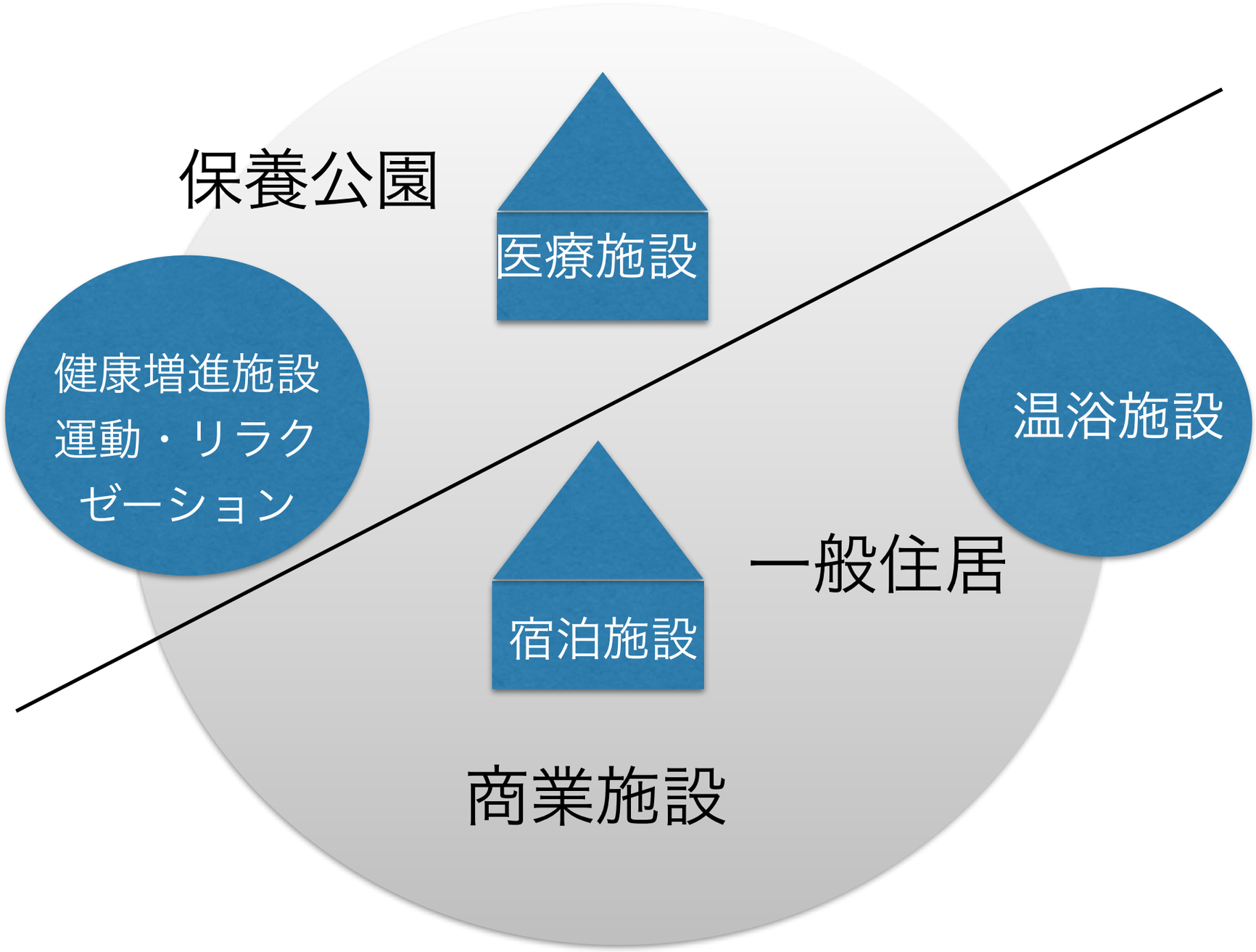
１３．組長要因
温泉関連産業(旅館、交通）出身、その他出身

１４．住民要因
協調型、分離型、空洞型、土着型、移住混在型

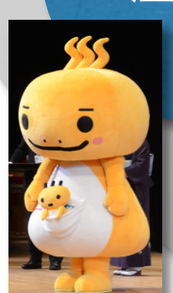
１５．インフラ要因
集中型、分散型、混在型

１６・年齢要因
高齢化率、疾病率、医療・教育水準

温泉地機能連携の考察



温泉地連携の考察



温泉地力シンポジウム（仙台市）資料　合田純人
2018.2.29

国民保養温泉地
91

日本の名湯百選 ©
100

温泉地力地域協定
3

全国温泉地連携事例

ラジウム・ラドン温泉広域連携
5

日本型クアオルト連携
7

秋保温泉連携（有馬、定山渓）
3

F.5

日本の
名湯百選 ©
100

日本の名湯百選©九州地区連携会議

加盟温泉地

福岡県	原鶴温泉
長崎県	雲仙温泉
佐賀県	古湯温泉
佐賀県	熊の湯温泉
大分県	別府八湯温泉
大分県	由布院温泉
大分県	竹田温泉郷
鹿児島県	川内高城温泉
鹿児島県	指宿温泉
鹿児島県	霧島温泉郷
熊本県	湯の児温泉
熊本県	地獄温泉

温泉地力シンポジウム（仙台市）資料　合田純人
2018.2.29

F.6

平成２７年　６月　９　日

厚生労働大臣　塩崎　恭久殿

要　望　書

「温泉利用型健康増進施設の認定要件緩和について」の要望書

超高齢化の伸展による医療費や介護費の高騰は我が国の国政の大きな課題であります。かねてより、我が国は湯治という健康回復の伝統習慣がありました。健康増進基地であり、生命再生装置として温泉の持つ機能が、明治以降近代化の波に一度見失われましたが、分子科学や生命科学の研究伸展により、超現代医学の補完的機能としてその保養・療養型の心身にやさしい温泉の機能が注目されています。

温泉の社会的サービスとしては、欧州主要国にみる温泉の保険適用は難しいとして国で温泉療養の医療費控除の制度を広く国民全般に普及し、国民費の削減を両立できうる温泉の持つ本質的な機能と価値を再認識。国民が日本人らしく豊かな自然と共生できうる社会の実現に寄の非常に閉鎖的な医療費控除の為の健康増進施設認定の施設要件型健康増進施設については地域の自然環境をも積極的に取り入れによる認定を可能としていただきたい。市民の健康増進のため、便宜の為、域内の温泉を始めとする多様な健康資源が有機的なネッうるよう、従来の解釈を見直し、より多くの国民が温泉の恩恵をしている健康長寿の増進が図られるよう、以下の項目の実現を強。

記

型健康増進施設の認定要件緩和について」保養・療養型健康都市ため、健康増進施設認定規定の施設解釈において、温泉利用型健については複数施設の連携も含まれるよう解釈の変更を図ること。

緩和を推進するためにモデル事業を実施していただきたいこと。

賛同する温泉の広域連携自治体首長による要望書を添付の上、します。

特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム
会長　三友紀男

要望書

（温泉利用型健康増進施設の認定要件緩和について）

ラジウム・ラドン温泉を利用した健康日本推進連絡会議

を受けた施設は全国に 20 箇所しかなく、温泉地が国民
生活習慣病予防に対し十分に役割を果たせていない現状

る要因として、認定の基準である「運動を安全かつ適切
を備えていること」及び「体力測定及び運動プログラム
備えていること」の要件が一つの施設に求められている
を受けるためには、一つの施設内に認定基準を満たすた
が求められ、申請に至っていないと考えられます。
入浴施設、温泉旅館、介護施設、公共体育施設、社会教
しており、お互いの設備を連携することにより認定基準
可能となります。
利用型健康増進施設の認定が温泉地として国民の健康増
考えますので、健康増進施設認定規定の施設の解釈にお
増進施設については複数施設の連携も含まれるようご検
す。

日

基久　殿

ドン温泉を利用した健康日本推進連絡会議

鳥取県三朝町長　吉田　秀光
秋田県仙北市長　門脇　光浩
新潟県阿賀野市長　田中　清善
山梨県北杜市長　白倉　政司
鳥取県倉吉市長　石田　耕太郎
特定非営利活動法人
健康と温泉フォーラム会長　三友　紀男

日本元気創生首長サミット仙北市会議宣言

私達全国屈指の温泉地の首長は、温泉と歴史の街秋田県仙北市に集結し、人類の貴重な資源である温泉の正しい健康活用と地域の発展・活性化の取り組みを協議した。相互に補完できうる有機的な情報のネットワーク化を通して、高齢化が進む住民の健康づくりや疾病予防、介護・福祉への温泉の積極的な活用若者や域内外の人々が自然に交流できる伝統的な我が国固有の温泉文化への回帰・継承等、自然と調和した豊かで活力ある温泉地域づくりを新たな決意として、日本元気創生首長サミット仙北市会議宣言として宣誓する。

平成27年11月5日　秋田県仙北市にて

代理 大学正和　山梨県北杜市長　白倉　政司
田中 清善　新潟県阿賀野市長　田中　清善
代理 副市長 山崎尚徳　鳥取県倉吉市長　石田耕太郎
首藤 勝次　大分県竹田市長　首藤 勝次
工藤 栄光　北海道豊富町長　工藤 栄光
江頭 実　熊本県菊池市長　江頭　実
門脇 光浩　秋田県仙北市長　門脇　光浩
三友 紀男　健康と温泉フォーラム会長　三友　紀男

要望書

温泉利用型健康増進施設の認定要件緩和について

【要旨】

保養・療養型の温泉健康都市を作り出すため、健康増進施設認定規定の施設の解釈において、温泉利用型健康増進施設については複数施設の連携も含まれるよう解釈の変更をお願い申し上げます。

【説明】

現在、我が国においては、少子高齢化に対応した新たな地域社会の形成が課題となっています。中でも、中高齢者が適切な運動、健康な食事、適度な休養を自らとることができる保養・療養型温泉地の必要性がこれまで以上に増してきています。
一方、全国の温泉地は、宿泊客の減少や地域経済そのものの衰退、そして後継者不足等により、温泉地としての機能が疲弊し、我が国の伝統的な地域の健康づくりの場であり、また、文化遺産でもある温泉が失われようとしています。残念ながら、温泉を活用した疾病予防や健康増進の取り組みは量と質の両面において十分にその機能と役割を果たしているとは言えない現状であります。
そのような中、全国有数のラジウム・ラドン温泉を持つ鳥取県三朝町（三朝温泉）、秋田県仙北市（玉川温泉）、山梨県北杜市（増富温泉）、新潟県　阿賀野市（五頭温泉郷）、鳥取県倉吉市（関金温泉）では、特定非営利活動法人健康と温泉フォーラムが主催した平成20年の三朝町でのフォーラムをきっかけとして「ラジウム・ラドン温泉を利用した健康日本推進連絡会議」を組織し、観光、健康づくり、介護福祉事業への横断的な事業等を相互に補完できうる有機的な広域のネットワークにより、国民の療養・保養・健康増進を促進する取り組みに挑戦して参りました。又、全国で特定疾患に有効な特異な療養泉を持つ保養・療養型温泉地である北海道豊富町と大分県竹田市も新たに連携に加わり、人類の貴重な資源である温泉の健康への活用の正しい認識と地域の発展・活性化を図り、地域住民の健康増進と活力ある温泉の健康文化が継承されていくことを願っています。
つきましては、国民の健康寿命を延伸し、高騰する医療費を削減し、健全な社会の発展を図ると同時に、健康温泉都市としての社会的な使命を果たすべく、温泉地の自然、歴史、文化、景観、匠の技等の地域資源と、医療施設、運動施設、介護施設、旅館施設等が連携し、運動・栄養・休養を適切に組み合わせた、全国のモデルとなりうる保養・療養型の温泉健康都市を作り出すため、下記の事項について、特段のご配慮賜りますようお願い申し上げます。

温泉地力シンポジウム（仙台市）資料　合田純人
2018.2.29

記

厚生労働省には、健康増進のための温泉利用及び運動を安全かつ適切に行うことができる施設を温泉利用型健康増進施設として認定し、医師の処方に基づき運動療法を実施した場合、医療費控除の対象とする健康増進施設認定制度がございます。
しかしながら、現在認定を受けた施設は全国に１９箇所しかなく、温泉地が国民の健康寿命の延伸及び生活習慣病予防に対し十分に役割を果たせていない現状があります。
認定を困難にしている要因として、認定の基準である「運動を安全かつ適切に実践するための設備を備えていること」及び「体力測定及び運動プログラムの提供のための設備を備えていること」の要件が一つの施設に求められていることがあります。認定を受けるためには、一つの施設内に認定基準を満たすための十分な敷地や湯量が求められ、申請に至っていないと考えられます。
温泉地には、日帰り入浴施設、温泉旅館、介護施設、公共体育施設、社会教育施設等の施設が点在しており、お互いの設備を連携することにより認定基準の要件を満たすことが可能となります。
つきましては、温泉利用型健康増進施設の認定が温泉地として国民の健康増進に寄与できるものと考えますので、健康増進施設認定規定の施設の解釈において、温泉利用型健康増進施設については複数施設の連携も含まれるようご検討をお願い申し上げます。

平成２７年　６月　９日
厚生労働大臣　　塩崎　恭久　殿

鳥取県三朝町長　　吉田　秀光
秋田県仙北市長　　門脇　光浩
新潟県阿賀野市長　　田中　清善
山梨県北杜市長　　白倉　政司
鳥取県倉吉市長　　石田　耕太郎
大分県竹田市長　　首藤　勝次
北海道豊富町長　　工藤　栄光
特定非営利活動法人
健康と温泉フォーラム会長　三友　紀男

精神文化としての温泉

産業資源としての温泉

地方資源としての温泉

健康文化資源としての温泉

生活習慣病他現代病の増加、精神疾患の増加、生活価値観の変遷

自然湧出　湯量の限界
ポンプ湧出　資源の枯渇　　循環ろ過　標示

バブル経済・リーマンショック後の経営危機

人口減、地方経済の低下、地方創生資金（市町村合併）

インバウンド対応、超高齢福祉社会、社会保障費の急増

COVID-19

人体（心身）

生命再生装置として温泉

湯治文化
温泉文化
生活文化

ひと（人）休み、ストレスフリーの温泉活用

源泉（自然）

源泉管理
源泉vs浴槽標示
硫化水素ガス事故防止

SDG’s対応

地球温暖化対策

省エネ対策

熱源の有効活用

施設（旅館・ホテル・温浴施設）

温泉管理、循環ろ過。加水、加温、かけ流し是非論議、資源管理

利用者主体の温泉

市場構造の変遷、団体から個人へ対応サービスの変化

地域（温泉地）

入湯税の戦略的活用

日帰り温泉余剰施設（市町村合併）

ふるさと創生資金（市町村合併）

国際社会（国）

社会保障費の抑制・予防医学の振興・健康寿命延伸

国家戦略として温泉地の役割の指針づくり生活文化づくり

国際標準化（グローバル・スタンダード）
日本の魅力の発信

国民保養温泉地の改革と活用政策（温泉地振興、国民の保養機能の強化と社会的サポート：温泉の自己免疫向支援と社会ストレス軽減促進、ポストコロナ新時代にむけて）

温泉医学の衰退　**保養地医学の復興**　**入湯税の戦略活用**　**自然資源（温泉）の社会的・保健的活用**　**温泉の国家的長期戦略**

温泉の文化歴史・社会構造の変遷イメージ図　©GODA2021.11.5

温泉医療費控除・温泉療法医連携・健康診断・民間医療施設 とのネットワー

次世代に絆ごう日本の温泉文化・命の居場所としての温泉資産

熊本県菊池第２さくら幼稚園児の温泉体験授業

Since 1986

日本の温泉の長期的戦略が必要です！
ご一緒に考えましょう。

　　例えば　人工知能と温泉医学の複合研究で新しい次元での温泉と人間の密接な関係の科学的な実証。その保健的・社会的活用のための研究財源。その原資に入湯税の戦略的活用。例えば、入湯税一人あたり１５０円の内１人１円の負担で約１億円の研究費が捻出できます。

　　それでもフランスやイタリアなど欧州温泉国にははるかに及びません。明治時代からそして、２度の世界大戦を経て、ひたすら直進を続けてきた、経済最優先の社会。しかし、その豊かさの危うさと近代医学の限界や歪（ひずみ）が見える時、今国民が望む幸せな生き方とは何か。そして、その生命サイクルの過程で、温泉がどう寄り添えるのか、我が国の大切な生命資源の温泉と私達の未来をご一緒に考えましょう。

日本近代温泉医学振興記念ー大島文庫

合田　　松浦三朝町長　　東教授　　松尾大島先生長女

2021年１１月１５日　　東京駅ステーションホテル